

# 社 会

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	社会 301 401 501・502 601・602	AB 896	平成31年
17	教育出版	教 出◆	社会 303 403 503 603	AB 950	
116	日本文教出版	日 文◆	社会 304 404 504 604	AB 918	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

## 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者

冊数	発行者
14冊	東書、教出、日文

## 2 学習指導要領における教科・学年の目標等

### 【社会科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

### 【学年の目標】

#### 【第3学年】

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

#### 【第4学年】

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

#### 【第5学年】

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活と

の関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

#### 【第6学年】

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

#### 【参考：小学校学習指導要領解説 社会編「第1章 総説 2 社会科改訂の趣旨及び要点」から（抜粋）】

(i) 社会科，地理歴史科，公民科の改善の基本方針

- 社会科，地理歴史科，公民科では，社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し，知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力，自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力，持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など，国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育んでいくことが求められる。
- 社会科，地理歴史科，公民科における教育目標は，従前の目標の趣旨を勘案して「公民としての資質・能力」を育成することを目指すし，その資質・能力の具体的な内容を「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で示した。  
その際，高等学校地理歴史科，公民科では，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を，小・中学校社会科ではその基礎をそれぞれ育成することが必要である。
- 資質・能力の具体的な内容としては，「知識・技能」については，社会的事象等に関する理解などを図るための知識と社会的事象等について調べまとめる技能として，「思考力・判断力・表現力等」については，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察する力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想する力や，考察したことや構想したことを説明する力，それらを基に議論する力として，また，「学びに向かう力・人間性等」については，主体的に学習に取り組む態度と，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵（かん）養される自覚や愛情などとして，それぞれ校種の段階や分野・科目ごとの内容に応じて整理した。
- 「社会的な見方・考え方」は，課題を追究したり解決したりする活動において，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察したり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想したりする際の視点や方法であると考えられる。そこで，小学校社会科においては，「社会的事象を，位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目して捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」を「社会的事象の見方・考え方」として整理し，中学校社会科，高等学校地理歴史科，公民科においても，校種の段階や分野・科目の特質を踏まえた「見方・考え方」をそれぞれ整理した。その上で，「社会的な見方・考え方」をそれらの総称とした。
- こうした「社会的な見方・考え方」は，社会科，地理歴史科，公民科としての本質的な学びを促し，

深い学びを実現するための思考力、判断力の育成はもとより、生きて働く知識の習得に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度や学習を通して涵養される自覚や愛情等にも作用することなどを踏まえると、資質・能力全体に関わるものであると考えられる。

(ii) 社会科、地理歴史科、公民科の具体的な改善事項

- 三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、課題を追究したり解決したりする活動の充実が求められる。社会科においては従前、小学校で問題解決的な学習の充実、中学校で適切な課題を設けて行う学習の充実が求められており、それらの趣旨を踏襲する。
- そうした学習活動を充実させるための学習過程の例としては、大きくは課題把握、課題追究、課題解決の三つが考えられる。また、それらを構成する活動の例としては、動機付けや方向付け、情報収集や考察・構想、まとめや振り返りなどの活動が考えられる。

- 社会科、地理歴史科、公民科の内容については、三つの柱に沿った資質・能力や学習過程の在り方を踏まえて、それらの趣旨を実現するため、次の二点から教育内容を整理して示すことが求められる。

視点の第一は、社会科における内容の枠組みや対象に関わる整理である。小学校社会科では、中学校社会科の分野別の構成とは異なり、社会的事象を総合的に捉える内容として構成されている。そのため教員は、指導している内容が社会科全体においてどのような位置付けにあるか、中学校社会科とどのようにつながるかといったことを意識しづらいという点が課題として指摘されている。そのことを踏まえ、小・中学校社会科の内容を、①地理的環境と人々の生活、②歴史と人々の生活、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活という三つの枠組みに位置付ける。また、①、②は空間的な広がり念頭に地域、日本、世界と、③は社会的事象について経済・産業、政治及び国際関係と、対象を区分する。

視点の第二は、「社会的な見方・考え方」に基づいた示し方の改善である。「社会的な見方・考え方」は社会的事象等を見たり考えたりする際の視点や方法であり、時間、空間、相互関係などの視点に着目して事実等に関する知識を習得し、それらを比較、関連付けなどして考察・構想し、特色や意味、理論などの概念等に関する知識を身に付けるために必要となるものである。これらのことを踏まえて、学習指導要領の内容について、例えば「社会的な見方・考え方」と概念等に関する知識との関係などを示していくことが重要である。

- 社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力を養うためには、現行学習指導要領において充実された伝統・文化等に関する様々な理解を引き続き深めつつ、将来につながる現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直しを図ることが必要である。具体的には、日本と世界の生活・文化の多様性の理解や、地球規模の諸課題や地域的な諸課題の解決について、例えば、我が国の固有の領土について地理的な側面や国際的な関係に着目して考えるなど、時間的・空間的な多様な視点から考察する力を身に付けるなどのグローバル化への対応、持続可能な社会の形成、情報化等による産業構造の変化やその中での起業、防災・安全への対応や周囲が海に囲まれ、多くの島々からなる海洋国家である我が国の国土の様子、主権者教育において重要な役割を担う教科として選挙権年齢の18歳への引き下げに伴い財政や税、社会保障、雇用、労働や金融といった課題への対応にも留意した政治参加、少子高齢化等による地域社会の変化などを踏まえた教育内容の見直しを図ることが必要である。
- 主体的な学びについては、児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元などを通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童生徒の表現を促すようにすることなどが重要である。
- 対話的な学びについては、例えば、実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりする活動の一層の充実が期待される。しかしながら、話し合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないといった課題が指摘されるところであり、深い学びとの関わりに留意し、その改善を図ることが求められる。
- また、主体的・対話的な学びの過程で、ICTを活用することも効果的である。
- これらのことを踏まえるとともに、深い学びの実現のためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関する知識を獲得するように学習を設計することが求められる。このような観点から、例えば主権者教育の充実

のため、モデル事業等による指導法の改善や単元開発の実施、新しい教材の開発・活用など教育効果の高い指導上の工夫の普及などを図ることも重要である。

- 授業において、新聞や公的機関が発行する資料等を一層活用すること。
- 教育環境の充実のために次のような条件整備が求められる。
  - ・教科の内容に関係する専門家や関係諸機関等と円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実させること
  - ・博物館や資料館、図書館などの公共施設についても引き続き積極的に活用すること
  - ・教員を対象とした研修の充実を努めること

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査研究事項（調査研究の対象）		対象の根拠（目標等）	数値データの単位
a	① 身近な地域や市区町村の様子について取り上げているページ数	第3学年の目標	ページ
	② ①のうち、市の様子について取り上げているページ数	第3学年の目標	ページ
b	地域に見られる販売の仕事のうち、外国との関わりについて取り上げているページ数	第3学年の目標	ページ
c	① 地域の様子の移り変わりについて取り上げているページ数	第3学年の目標	ページ
	② ①のうち、「人口」を取り上げる際に、少子高齢化、国際化などについて取り上げているページ数	第3学年の目標	ページ
d	自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページ数	第4学年の目標	ページ
e	県内の文化財や年中行事を取り上げている事例数	第4学年の目標	個
f	地域の発展に尽くした先人の人数	第4学年の目標	人
g	県内の特色ある地域のうち、国際交流に取り組んでいる地域を取り上げているページ数	第4学年の目標	ページ
h	① 世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土を取り上げているページ数	第5学年の目標	ページ
	② ①のうち、我が国の位置と領土を取り上げているページ数	第5学年の目標	ページ
i	大量の情報や情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業を取り上げているページ数	第5学年の目標	ページ
j	自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページ数	第5学年の目標	ページ
k	我が国の政治の働きのうち、自然災害からの復旧や復興を取り上げているページ数	第6学年の目標	ページ
l	国家・社会の発展に大きな働きをした先人の人数	第6学年の目標	人
m	国宝、重要文化財、世界文化遺産等、国家・社会の発展を象徴する文化遺産を取り上げている事例数	第6学年の目標	個
n	我が国の歴史上の主な事象における、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題など、国内外に残されている課題等について取り上げているページ数	第6学年の目標	ページ
o	我が国と経済や文化などの面をつなぐりの深い国の人々や生活の様子を取り上げているページ数	第6学年の目標	ページ
p	国際社会において我が国が果たしている役割を取り上げているページ数	第6学年の目標	ページ
q	発展的な内容を取り上げている事例数	小学校学習指導要領第1章総則	個

## イ 調査項目の具体的な内容

### ① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

調査研究事項のb、c、d、e、f、g、i、j、k、l、m、n、p及びqと関連して、次の事項について具体的に調査する。（調査結果は「別紙2」）

- b 地域に見られる販売の仕事のうち、関わりのある外国として取り上げられている国の国名
- c 地域の様子の移り変わりについて取り上げている地名
- d 自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページの扱い
- e 県内の文化財名や年中行事名
- f 地域の発展に尽くした先人名
- g 国際交流に取り組んでいる地名
- i 大量の情報や情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業を取り上げている産業名
- j 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページの扱い
- k 我が国の政治の働きのうち、自然災害からの復旧や復興を取り上げているページの扱い
- l 国家・社会の発展に大きな働きをした先人名
- m 国宝、重要文化財、世界文化遺産等、国家・社会の発展を象徴する文化遺産名
- n 我が国の歴史上の主な事象における、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題、国内外に残されている課題等について取り上げているページの扱い
- p 国際社会において我が国が果たしている役割を取り上げているページの扱い
- q 発展的な内容で扱っている事例名

<その他>

- \*1 我が国の位置と領土の扱い（調査結果は「別紙2-1」）
- \*2 国旗・国歌の扱い（調査結果は「別紙2-2」）
- \*3 神話や伝承を知り、日本文化や伝統に関心をもたせる資料（調査結果は「別紙2-3」）
- \*4 北朝鮮による拉致問題の扱い（調査結果は「別紙2-4」）
- \*5 防災や自然災害の扱い（調査結果は「別紙2」（d、j、k、n））
- \*6 一次エネルギーや再生可能エネルギーの扱い（調査結果は「別紙2-5」）
- \*7 持続可能な社会づくりについての扱い（調査結果は「別紙2-6」）
- \*8 オリンピック・パラリンピックの扱い（調査結果は「別紙2-7」）

### ② 調査対象事項を設定した理由等

- ・ 第3学年においては、身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の産業と消費生活の様子や地域の様子の移り変わりなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解し、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことなどが目標で示されている。具体的には、地域に見られる生産や販売の仕事、市の様子の移り変わりの内容を取り上げ、自分たちの市を中心とした地域の社会生活を総合的に理解できるようにすることである。

これらのことから、地域に見られる販売の仕事のうち、関わりのある外国として取り上げられている国名、地域の様子の移り変わりについて取り上げている事例地名について取り上げ、その内容について調査する。（b、c）

- ・ 第4学年においては、自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働き、自分たちの都道府県の地理的環境の特色などについて、人々の生活との関連を踏まえて理解し、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことなどが目標で示されている。具体的には、自然災害から人々を守る活動、県内の伝統や文化、先人の働き、県内の特色ある地域の様子などの内容を取り上げ、自分たちの県を中心とした地域の社会生活を総合的に理解できるようにすることである。

これらのことから、自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備え、県内の文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人、県内の特色ある地域のうち、国際交流に取り組んでいる地域について取り上げ、その内容について調査する。

（d、e、f、g）

- ・ 第5学年においては、我が国の国土の地理的環境の特色、社会の情報化と産業の関わりについて理解し、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養うことなどが目標で示されている。具体的には、我が国の国土の様子と国民生活、我が国

の産業と情報との関わり、我が国の国土の自然環境と国民生活の関わりなどの内容を取り上げ、我が国の国土と産業の様子や特色を総合的に理解できるようにすることである。

これらのことから、大量の情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが進めている様々な対策や事業について取り上げ、その内容について調査する。(i、j)

- 第6学年においては、我が国の政治の考え方や仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活、グローバル化する国際社会における我が国の役割について理解し、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養うことなどが目標で示されている。具体的には、我が国の政治の働き、我が国の歴史上の主な事象、グローバル化する世界と日本の役割などの内容を取り上げ、我が国の政治の働きや歴史、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解できるようにすることである。

これらのことから、我が国の政治の働きのうち、自然災害から復旧や復興、国家・社会の発展に大きな働きをした先人、国家・社会の発展を象徴する文化遺産、我が国の歴史上の主な事象における、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題など、国内外に残されている課題等、国際社会において我が国が果たしている役割について取り上げ、その内容について調査する。(k、l、m、n、p)

- 発展的な内容については、小学校学習指導要領第1章総則「第2 教育課程の編成 3教育課程の編成における共通事項 (1) 内容等の取扱い イ」において、「学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。」と示されている。また、「(3) 指導計画の作成等に当たっての配慮事項 イ」では、「各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。」と示されている。

これらのことから、発展的な内容の扱いの有無、取り上げている内容の具体的な学習の内容について調査する。(q)

#### <その他>

- 我が国の位置と領土の扱いについては、小学校学習指導要領に基づき、正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。(\*1)
- 国旗・国歌については、学習指導要領に基づき、国旗・国歌に対する正しい認識をもたせ、それらを尊重する態度を育てることが大切であることから、その扱いについて調査する。(\*2)
- 学習指導要領では、第6学年の歴史学習で、大和朝廷による統一の様子などを通して、むらからくへと変化したことを学習するに当たって、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもたせることなどを求めているため、神話・伝承の扱いについて調査する。(\*3)
- 東京都教育委員会は、教育目標の基本方針1として「人権尊重の精神と社会貢献の精神の育成」を掲げ人権教育を推進してきた観点から、児童が人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、北朝鮮による拉致問題の扱いについて調査する。(\*4)
- 東京都では、自然災害における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害における関係機関の役割等について考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱いについて調査する。(\*5)
- 学習指導要領に基づき、環境にかかる諸問題を考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、一次エネルギーや再生可能エネルギーの扱いについて調査する。(\*6)
- 児童には、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される。学習指導要領に基づき、正しい理解ができるように、持続可能な社会づくりの扱いについて、調査する。(\*7)
- 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。(\*8)

### ③ 調査研究の方法

- b 地域に見られる販売の仕事のうち、関わりのある外国として取り上げられている国の国名について整理する。
- c 地域の様子の変り変わりについて取り上げている地名について整理する。

- d 自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページの扱いについて整理する。
  - e 県内の文化財名及び古くから伝わる年中行事名について整理する。
  - f 地域の発展に尽くした先人名について整理する。
  - g 国際交流に取り組んでいる地名について整理する。
  - i 大量の情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業を取り上げている産業名について整理する。
  - j 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページの扱いについて整理する。
  - k 我が国の政治の働きのうち、自然災害からの復旧や復興を取り上げているページの扱いについて整理する。
  - l 国家・社会の発展に大きな働きをした先人名について整理する。
  - m 国宝、重要文化財、世界文化遺産等、国家・社会の発展を象徴する文化遺産名について整理する。
  - n 我が国の歴史上の主な事象における、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題など、国内外に残されている課題等について取り上げているページの扱いについて整理する。
  - p 国際社会において日本の関係機関の役割等を取り上げているページの扱いについて整理する。
  - q 発展的な内容については、義務教育諸学校教科用図書検定基準第2章2(16)に基づき、発展的な学習内容以外のものと区別して、発展的な学習内容であることが明示されているものを整理する。
- < 調査の結果、q については記載の無いことを確認した。 >

<その他>

- \*1 我が国の位置と領土について取り上げている記述の概要を調査する。
- \*2 国旗・国歌について取り上げている記述を調査する。
- \*3 神話や伝承について取り上げている記述の概要を調査する。
- \*4 北朝鮮による拉致問題について取り上げている記述の概要を調査する。
- \*5 防災や、自然災害時における関係機関の役割等について取り上げている記述の概要について整理する。
- \*6 一次エネルギーや再生可能エネルギーについて取り上げている項目を調査する。
- \*7 持続可能な社会づくりについて取り上げられている項目を調査する。
- \*8 オリンピック・パラリンピックについて取り上げている項目及び記述の概要を調査する。

## (2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

以下の観点について、箇条書きで記載する。

- ア 冊子の構成
- イ 学習過程
- ウ 学習活動
- エ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫
- オ ユニバーサルデザインの視点
- カ デジタルコンテンツの扱い



「別紙2」【 (1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 】 (小学校 社会)

<第3学年> b 地域に見られる販売の仕事のうち、関わりのある外国として取り上げている国の国名

発行者	外国の国名
東書	①中国 ②アメリカ ③メキシコ ④ニュージーランド
教出	①イタリア ②中国 ③モータニア ④オーストラリア ⑤ブラジル ⑥アメリカ
日文	①タイ ②アメリカ合衆国(アメリカ) ③フィリピン ④エクアドル ⑤ブラジル ⑥南アフリカ共和国 ⑦ニュージーランド ⑧チリ

<第3学年> c 地域の様子の移り変わりについて取り上げている地名

発行者	地域の様子の移り変わりについて取り上げている地名
東書	①兵庫県明石市 ②福岡県福岡市
教出	①神奈川県横浜市 ②岐阜県岐阜市 ③大分県大分市 ④広島県福山市
日文	①埼玉県川越市 ②愛知県名古屋市 ③大阪府大阪市

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第4学年> d 自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページの扱い

発行者	国や地方公共団体の関係機関の取組	地域や学校の取組
<p>東書</p>	<p>①【本文】「だから、県や国から助けをいさつや消防、自衛隊が出動するのですね。」&lt;P79&gt;                  ②【写真】伊豆半島沖地震直後に出動した自衛隊&lt;P79&gt;                  ③【写真】災害用伝言ダイヤル171&lt;P83&gt;                  ④【コラム】災害用伝言ダイヤル&lt;P83&gt;                  ⑤【本文】「バケツや水、毛布などがほかにさんざれられている部屋があったよ。」、「通学路の公園にあるブランコは、テントになるんだね。」&lt;P85&gt;                  ⑥【写真】公園のひょうしき&lt;P85&gt;                  ⑦【写真】防災倉庫&lt;P85&gt;                  ⑧【写真】テントにできるブランコ&lt;P85&gt;                  ⑨【コラム】防災倉庫&lt;P85&gt;                  ⑩【写真】建せつ中の防潮堤&lt;P86&gt;                  ⑪【写真】津波ひなんビルと海ばつ(地面の高さ)をしめすひょうしき&lt;P86&gt;                  ⑫【コラム】市役所の笠原さんの話&lt;P86&gt;                  ⑬【コラム】防災計画&lt;P86&gt;                  ⑭【図】海に近い地いきの津波ひなんビル&lt;P87&gt;                  ⑮【写真】津波のひなん方法をしめすパンフレット&lt;P87&gt;                  ⑯【本文】「浜松市は海に面しているの、地震の後の津波にそなえて、とても長い防潮堤をつくっています。」、「そのほかにも、津波ひなんビルの指定をしているそうです。」、「大きな地震の場合は、国や自衛隊、県とも連携して対応しています。」&lt;P87&gt;                  ⑰【図】大きな災害時の連けい図&lt;P87&gt;                  ⑱【写真】地いきのひなん行動計画&lt;P88&gt;                  ⑲【写真】ひなん行動計画の話し合いの様子&lt;P88&gt;                  ⑳【コラム】ハザードマップ&lt;P88&gt;                  ㉑【写真】地いきのひなん行動計画、ひなん行動計画の話し合いの様子&lt;P88&gt;                  ㉒【写真】海に近い地いきのハザードマップ&lt;P89&gt;                  ㉓【写真】自衛隊による救助の様子&lt;P96&gt;                  ㉔【コラム】市役所の溝上さんの話&lt;P97&gt;                  ㉕【写真】救助活動の様子&lt;P98&gt;                  ㉖【本文】「消防やいさつ、自衛隊が出動し、協力して救助活動をしたと聞きました。」&lt;P98&gt;                  ㉗【写真】火山防災マップ&lt;P99&gt;                  ㉘【本文】「御嶽山はこれまでに何回もふん火しています。そこで、村では、ふん火にそなえ、登山者や住民に広く知らせるために、「火山防災マップ」を作成しています。そして、ふん火にそなえて山小屋をほ強し、山小屋の中にはヘルメットやかい中電とうなどをそなえています。」、「御嶽山は、長野県と岐阜県にまたがっています。そこで、県や関係する市町村、それぞれの消防やいさつ、さらに国の機関が協力して、「御嶽山火山防災きょうぎ会」をつくり、けいかいひなん体せいの整ひに取り組んでいます。」&lt;P99&gt;                  ㉙【写真】御嶽山火山防災きょうぎ会&lt;P99&gt;                  ㉚【表】きょうぎ会会員の県と市町村&lt;P99&gt;</p>	<p>①【本文】「家のどこがいちばん安全な場所か、教えてもらいました。」、「わたしの家では、家具の転とう防止の対策をしています。」、「水道や電気が止まることもあるので、ひなん用のリュックをじゅんびしています。」、「うちはマンションだから、地震のときはエレベーターに乗らないように言われました。」、「もしものときは、災害用伝言ダイヤルでれんらくし合おうと約束しています。」、「市のひなん場所になっている近くの公園に集まることになっています。」&lt;P82～83&gt;                  ②【イラスト】あいりさんの家でそなえているもの&lt;P82&gt;                  ③【写真】家具の転とう防止グッズ&lt;P83&gt;                  ④【写真】エレベーターの地震対策&lt;P83&gt;                  ⑤【本文】「学校では、ひなん訓練を2、3か月に1回は行っているね。」、「学校でも、いろいろな転とう防止をしたり、きんぎょの食料をじゅんびしたりしているのは家と同じだね。」、「震度5以上のときは、家の人が学校にむかえに来ることが決まっているんだね。」&lt;P84～85&gt;                  ⑥【写真】地震体験車&lt;P84&gt;                  ⑦【写真】転とう防止の留め金具&lt;P84&gt;                  ⑧【写真】学校でのひなん訓練&lt;P84&gt;                  ⑨【写真】ほかんざれているきんぎょの食料&lt;P84&gt;                  ⑩【本文】「市役所で話を聞いたときも、ひなん行動計画を立てるときは、地いきの人も参加すると言っていたね。」、「防災訓練には、高れいい者や小さい子どもも参加して、みんな一所けん命にやっているね。」&lt;P88&gt;                  ⑪【写真】ハザードマップを使用して、きんぎょな場所をかくにんしている様子&lt;P89&gt;                  ⑫【写真】車いすのお年よりがひなん訓練をする様子&lt;P89&gt;                  ⑬【コラム】地いきに住む高橋さんの話&lt;P89&gt;                  ⑭【写真】自主防災隊の集合訓練の様子&lt;P90&gt;                  ⑮【本文】「浜松市には、自主防災隊という、災害のときに助け合って地いきの人々を見守っていく組織があります。」、「地いきの人たちが参加して、自主防災隊がつくられているんだね。」、「市の取組だけではなく、地いきの人たちの自主的な取組も、災害からくらしを守るために大切なことなんだね。」&lt;P90～91&gt;                  ⑯【コラム】自主防災組織&lt;P90&gt;                  ⑰【コラム】自主防災隊の村松さんの話&lt;P90&gt;                  ⑱【イラスト】自主防災隊の主な活動&lt;P91&gt;                  ⑲【本文】「自助については、ふだんから家族で話し合っておくことが大事です。」、「共助については、ご近所にだれが住んでいるかなどを知っておく必要があります。」、「大きな災害のときは、公助や互助がとても重要になってきます。」&lt;P93&gt;                  ㉑【写真】水害を想定したクロスロードゲームをする小学生&lt;P97&gt;                  ㉒【写真】ハザードマップをかくにんする中学生&lt;P97&gt;                  ㉓【図】自分でつくるひなん計画(マイ・タイムライン)&lt;P97&gt;</p>

「別紙2」(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第4学年> d 自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページの扱い

発行者	国や地方公共団体の関係機関の取組	地域や学校の取組
<p>教出</p> <p>①【写真】学校にある「ひなん地」の看板&lt;P84&gt;                  ②【写真】津波にそなえるため、土地の高さをしめした看板&lt;P84&gt;                  ③【本文】学校や公園には、ひなん地と書かれた看板が立っているよ。&lt;P84&gt;                  ④【写真】市の防災会議&lt;P86&gt;                  ⑤【本文】市役所には、地震や津波などの災害にそなえる取組を進めたり、災害の発生時に関係者に協力を求めたりする係の人がいます。」「地域防災計画には、地震が起こったときに住民を守るため、市や県などの関係機関が、どのように協力し合うかが、書かれています。」「地震や津波から住民を守るには、市や県、国などの関係機関の協力が大切なんだね。」「&lt;P86～87&gt;                  ⑥【コラム】市役所の山本さんの話&lt;P86&gt;                  ⑦【図】地震や津波から住民を守るしくみ&lt;P87&gt;                  ⑧【表】関係機関の役割&lt;P87&gt;                  ⑨【写真】地震や津波から、住民が身を守るために必要な情報&lt;P88&gt;                  ⑩【本文】正確な情報を早く集めることを大切にしています。そして、住民の方に、情報を早く確実にとどけることに努めます。」「市では地震や津波にそなえて、日ごろから住民に、さまざまな情報を伝えています。」「この地図は、ハザードマップと言います。市が作成して、住民の方に配っています。」「&lt;P88～89&gt;                  ⑪【写真】市が配布する防災ラジオ&lt;P88&gt;                  ⑫【コラム】市役所の山本さんの話&lt;P88&gt;                  ⑬【コラム】ハザードマップ&lt;P89&gt;                  ⑭【写真】防災マップ&lt;P89&gt;                  ⑮【写真】津波ひなんマップ&lt;P89&gt;                  ⑯【写真】市の広報パンフレット&lt;P89&gt;                  ⑰【写真】かまどベンチ&lt;P90&gt;                  ⑱【写真】公園にある災害時の防災トイレ&lt;P90&gt;                  ⑲【写真】公園の災害井戸ポンプ&lt;P90&gt;                  ⑳【本文】「ひなん地の看板は、学校や公園にも立っているよ。」「海の近くには、津波ひなんタワーが置かれています。」「&lt;P90～91&gt;                  ㉑【コラム】市役所の海野さんの話&lt;P90&gt;                  ㉒【図】主なひなんしせつの位置&lt;P91&gt;                  ㉓【コラム】市役所の服部さんの話&lt;P91&gt;                  ㉔【写真】津波ひなんタワー&lt;P91&gt;                  ㉕【写真】地震防災センターの見学&lt;P92&gt;                  ㉖【コラム】地震防災センターの伊藤さんの話&lt;P92&gt;                  ㉗【本文】「ハザードマップは、考えられる最大の地震にそなえて作られているときいたよ。」「&lt;P96&gt;</p>	<p>①【写真】自治会の防災倉庫&lt;P94&gt;                  ②【写真】倉庫の中にそなえられた水や菓&lt;P94&gt;                  ③【写真】防災用品を点検する&lt;P94&gt;                  ④【本文】「ひなん地となっている公園には、自主防災倉庫があったよ。」「倉庫は、地域の自治会が管理しているそうだよ。」「自治会の役割と市の役割をぶんとんで、災害時に協力し合えるようにしています。」「&lt;P94～95&gt;                  ⑤【コラム】自治会の竹下さんの話&lt;P94&gt;                  ⑥【写真】地域で行われる防災訓練&lt;P95&gt;                  ⑦【写真】地震に強いつくりの家にするための工事&lt;P95&gt;                  ⑧【グラフ】工事によって、地震に強いつくりになった家の数&lt;P95&gt;                  ⑨【コラム】住民の方の話&lt;P95&gt;                  ⑩【コラム】救援物資&lt;P95&gt;                  ⑪【コラム】県内の焼津市に住む高校生の取組み&lt;P96&gt;                  ⑫【写真】夜に行われるひなん訓練&lt;P97&gt;                  ⑬【写真】東日本大震災の時に、津波の様子を見て、より安全な場所へのひなんを始めた子どもたち&lt;P97&gt;                  ⑭【コラム】岩手県釜石市の人々の取組み&lt;P97&gt;                  ⑮【本文】「日ごろのそなえだけにたよるのではなく、より安全であるためには災害の様子を見ながら、自分で判断することが大切だね。」「&lt;P97&gt;</p>	

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第4学年> d 自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページの扱い

発行者	国や地方公共団体の関係機関の取組	地域や学校の取組
<p>教出</p>	<p>②⑧【写真】川のそばにある公園&lt;P100&gt;                  ②⑨【写真】消防の人に救出される住民(2004年7月14日)&lt;P101&gt;                  ③⑩【コラム】水防学習館の村上さんの話&lt;P102&gt;                  ③⑪【写真】住民へのひなのよひなげに使う防災無線室&lt;P104&gt;                  ③⑫【写真】防災無線&lt;P104&gt;                  ③⑬【コラム】市役所の谷間さんの話&lt;P104&gt;                  ③⑭【図】水害から住民を守るしくみ&lt;P105&gt;                  ③⑮【表】関係機関の役割&lt;P105&gt;                  ③⑯【本文】「関係機関の協力によって、わたしたち住民は、水害から身の安全が守られるんだね。」&lt;P105&gt;                  ③⑰【写真】ふえた川の水を一時的にためるしせつ&lt;P106&gt;                  ③⑱【写真】市と国が協力してもうけた河川防災ステーション&lt;P106&gt;                  ③⑲【コラム】市役所の西澤さんの話&lt;P106&gt;                  ④①【図】五十嵐川の水害にそなえる取組み&lt;P107&gt;                  ④②【コラム】市役所の西澤さんの話&lt;P107&gt;                  ④③【写真】電柱にかかげられた「まごちごとハザードマップ」の標識&lt;P107&gt;                  ④④【本文】「実際に起こったひがいを、今に伝える取組みでもあるね。」「過去に起こったさまざまなひがいをふり返って、これからにそなえているんだね。」&lt;P107&gt;                  ④⑤【写真】ガイドブックの中の「にげどきマップ」&lt;P109&gt;                  ④⑥【図】有珠山火山防災協議会と、関係機関の役割&lt;P113&gt;                  ④⑦【写真】有珠山火山防災マップ&lt;P113&gt;                  ④⑧【写真】伊達市とどなり合おう壮警町の取組み&lt;P113&gt;                  ④⑨【コラム】市役所の人の話&lt;P113&gt;                  ④⑩【図】除雪のためのしせつや集めた雪を置く場所の位置&lt;P115&gt;                  ⑤①【図】雪の災害が発生した場合に協力するしくみ&lt;P115&gt;                  ⑤②【コラム】市役所の人の話&lt;P115&gt;</p>	<p>①⑥【写真】家の中にとまったどろろをかき出すボランティアの人々(2004年7月14日)&lt;P102&gt;                  ①⑦【写真】水害時の土のうを精む作業&lt;P108&gt;                  ①⑧【写真】水防倉庫の道具を調べる&lt;P108&gt;                  ①⑨【コラム】水防活動に取り組む大槻さんの話&lt;P108&gt;                  ②①【写真】水害に対する日ごろのそなえ&lt;P109&gt;                  ②②【コラム】住民の方の話&lt;P109&gt;                  ②③【コラム】地域のだれもがひなんするためには&lt;P109&gt;                  ②④【本文】「過去に起こった水害について知ること、そなえていくうえで大切だね。」&lt;P109&gt;                  ②⑤【写真】市から借りた除雪機で作業する地域の住民&lt;P115&gt;</p>

「別紙2」(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第4学年> d 自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページの扱い

発行者	国や地方公共団体の関係機関の取組	地域や学校の取組
<p>日 文</p>	<p>①【写真】伊豆大島でおきた土砂災害のときの自衛隊の活動&lt;P71&gt;                  ②【本文】(建設省(当時)や自衛隊などの取組)で、6日になって住たく地への水の流入が止まりました。&lt;P73&gt;                  ③【写真】消防庁によるゴムボートでの救助&lt;P75&gt;                  ④【写真】1960年ごろの妙正寺川と、工事がおこなわれたあとの妙正寺川&lt;P78&gt;                  ⑤【コラム】町会長の松原さんの話&lt;P78&gt;                  ⑥【写真】道路の下にある調節池&lt;P79&gt;                  ⑦【本文】「地下調節池は、神田川、善福寺川、妙正寺川にこう水のきけんがあるときに使われます。あふれた雨水を、環状七号線という、広い道路の地下50mにある巨大トンネルに、一時的にたくわえるしつです。J&lt;P79&gt;                  ⑧【図】地下調節池のしくみ&lt;P79&gt;                  ⑨【写真】小河内ダム&lt;P80&gt;                  ⑩【コラム】本所防災館の岩田さんの話&lt;P81&gt;                  ⑪【写真】暴風雨の体験&lt;P81&gt;                  ⑫【写真】水の重さで開きにくくなったドアをおす体験&lt;P81&gt;                  ⑬【写真】本所防災館&lt;P81&gt;                  ⑭【写真】気象庁から出される、雨や風などの情報&lt;P82&gt;                  ⑮【写真】防災無線で知らせるスピーカー&lt;P82&gt;                  ⑯【写真】雨量計&lt;P82&gt;                  ⑰【本文】「気象庁や国土交通省では、①の資料のように、台風や集中豪雨、川に関するけい報や注意報を発表しています。杉並区では、地いきにもうけている②の防災無線でも、きん急の情報を流します。また、あらかじめ登録している人には、「メール配信サービス」で情報を送ります。J、「気象庁や杉並区では、防災情報を出して、人々を守ろうとしているんだ。J、「防災無線のテストもかねて、夕方になると、まちじゅうに音楽が流れているんだね。J、「杉並区では、2006(平成18)年に、⑤で示されているようなハザードマップをつくりました。これには、かつて水につかつた地いきやひなな場所も示されています。J&lt;P82~83&gt;                  ⑱【写真】テレビによる情報&lt;P83&gt;                  ⑲【写真】杉並区がつくった、こう水のハザードマップ&lt;P83&gt;                  ⑳【コラム】ハザードマップ&lt;P83&gt;                  ㉑【写真】消防庁の救助ヘリ&lt;P84&gt;                  ㉒【写真】消防隊員や消防団による水防訓練&lt;P84&gt;                  ㉓【写真】たれた家からの救出訓練&lt;P84&gt;                  ㉔【写真】土砂災害によるひ害を防ぐための防&lt;P84&gt;                  ㉕【本文】「2014(平成26)年、東京都と奥多摩町合同による水害対さく訓練がおこなわれました。これは、台風が近づいておきる集中豪雨を想定したものでした。また、同じ年の8月には、東京都と杉並区合同の総合防災訓練もおこなわれました。自然がもたらすさまざまな災害にそなえての訓練でした。J&lt;P84&gt;                  ㉖【コラム】公助&lt;P85&gt;</p>	<p>①【表】防災のために用意するものの例&lt;P79&gt;                  ②【写真】森林の手入れのようす&lt;P80&gt;                  ③【コラム】森林組合からの手紙&lt;P80&gt;                  ④【写真】日本赤十字社による活動のようす&lt;P84&gt;                  ⑤【写真】防災ポンプの体験&lt;P85&gt;                  ⑥【写真】びちく倉庫の中を見るようす&lt;P85&gt;                  ⑦【コラム】防災部長の松原さんの話&lt;P85&gt;                  ⑧【コラム】共助&lt;P85&gt;                  ⑨【コラム】自助&lt;P85&gt;</p>

「別紙2」(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第4学年> d 自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページの扱い

発行者	国や地方公共団体の関係機関の取組	地域や学校の取組
<p>日 文</p>	<p>②7【図】東京都が取り組んでいる水に関する対さく&lt;P86&gt;                  ②8【本文】そこでは、災害対さく基本法という法律をもとに、東京都の防災について話し合うそうです。』&lt;P86&gt;                  ②9【コラム】災害対さく基本法&lt;P86&gt;                  ③0【写真】「東京防災」の表紙&lt;P87&gt;                  ③1【コラム】東京都防災ホームページ&lt;P87&gt;                  ③2【写真】ひなん所となった体育館&lt;P89&gt;                  ③3【写真】たき出しにならぶ人たち&lt;P89&gt;                  ③4【本文】「消防しよやけいさつしよをはじめ、多くの人が、救助やライフラインの復旧にあたりました。自衛隊は、救助とともに、たき出しや給水、トイレの設置、物資の輸送、がれきのかたづけなどをおこないました。』&lt;P89&gt;                  ③5【コラム】復旧&lt;P89&gt;                  ③6【表】ライフラインの復旧&lt;P89&gt;                  ③7【写真】仮設住たく&lt;P90&gt;                  ③8【写真】たい震工事がほどこされた小学校&lt;P90&gt;                  ③9【写真】ひなん場所をしめす看板&lt;P90&gt;                  ④0【本文】「神戸市や兵庫県では、仮設住たくを建てたり、生活に必要なお金を支給したりしました。また、仕事のしえん、はいき物のしより、港の修復、学校の再開などにも取り組まれました。建物のたも取り組まれました。地震や津波がおこると、気象庁から、きん急速報やけい報などが出されます。神戸市では、危機管理室から、防災きん急無線システムを使って、情報を伝え、すばやくひなんができるようにしています。ふだんから、あぶない場所やひなん場所、ひなん経路を知らせるとともに、学校などに、非常のときに使うことができる物資も用意しています。』&lt;P90&gt;                  ④1【本文】「もちろん、市(区)町村や都道府県、国、けいさつ、消防、自衛隊などばかりでなく、地いきに住んでいる人々の協力も必要になります。神戸市では、小学校の校区ごとに、防災福祉コミュニケーションをつくりました。』&lt;P91&gt;                  ④2【写真】稲むらの火の館&lt;P94&gt;                  ④3【写真】世界津波の日ポスター&lt;P95&gt;                  ④4【写真】防波てい&lt;P96&gt;                  ④5【写真】ひなんタワー&lt;P96&gt;                  ④6【写真】ひなん用のビル&lt;P96&gt;                  ④7【写真】ひなん標識&lt;P96&gt;                  ④8【コラム】防災企画課の片家さんの話&lt;P96&gt;                  ④9【写真】地震体験車「ごりようくん」&lt;P97&gt;                  ⑤0【写真】紀の国防災人づくり塾&lt;P97&gt;                  ⑤1【写真】県内に配られているカード&lt;P97&gt;                  ⑤2【写真】保育園のひなん訓練のようす&lt;P97&gt;</p>	<p>⑩【イラスト】自分たちができること&lt;P87&gt;                  ⑪【本文】「風水害にそなえて、日ごろからしっかりと用意をして、自分たちで身を守ることが、ほんとうにたいせつだね。』&lt;P87&gt;                  ⑫【写真】小学校での防災訓練&lt;P91&gt;                  ⑬【写真】学校におかれている物資&lt;P91&gt;                  ⑭【本文】「大きな災害がおこった直後には、消防や自衛隊などによる救助活動(公助)が、じゆうぶんにできるとはかぎりません。家族や近所の人たちの協力によって救助される人もいることでしょう(共助)。やはり、自分の命は自分で守ること(自助)がたいせつです。自助・共助・公助ということばは、阪神・淡路大震災のあとに全国に広がりました。』、「ゆいさんたちは、日ごろから、だれもが防災意識を高めることがたいせつなことで、自分たちの地いきは自分たちで守ることが必要だとわかりました。』&lt;P91&gt;                  ⑮【表】地震がおきたときの対応&lt;P91&gt;                  ⑯【写真】浜口梧陵&lt;P94&gt;                  ⑰【コラム】館長の崎山さんの話&lt;P94&gt;                  ⑱【本文】「梧陵たちがつくったてい防が、約100年後におきた津波から、村を守ったんだね。』&lt;P94&gt;                  ⑲【コラム】「稲むらの火」のあらすじ&lt;P94&gt;                  ⑳【コラム】「稲むらの火」&lt;P95&gt;                  ㉑【本文】「地震がおきたら津波が来ると思っていると、すぐににげよう。』&lt;P97&gt;</p>

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第4学年> d 自然災害から人々を守る活動のうち、地域の関係機関や人々が行ってきたこれまでの取組や、今後の備えについて取り上げているページの扱い

発行者	国や地方公共団体の関係機関の取組	地域や学校の取組
<p>日文</p>	<p>53【本文】津波の情報をいち早くつかんで、県民の人たちに知らせる和歌山県のシステムは、全国で最も進んでいるんだね。」「和歌山県は、津波のときにより早くひなんできるように、市町村がひなん標識を設置したり、ひなん路を整備したりすることを助けているそうだよ。」「県庁の人たちは、地震がおこったときのことを予測して、津波のぎせい者がゼロになるように、いろいろな取組を進めてくれているんだね。」「&lt;P97&gt;</p> <p>54【写真】新燃岳の火山ハザードマップ&lt;P98&gt;</p> <p>55【表】ふん火けいかいのレベル&lt;P98&gt;</p> <p>56【本文】午後6時には、ふん火けいかいレベルが3に引き上げられました。4日後の30日には、火口の東側にある宮崎県高原町の513世帯1158人に、ひなんかんこくが出されました。」「国や宮崎県、高原町と周辺の市では、観測体制を整えて、少しの変化も原のがさないようにしています。そして、変化が見られたときには、すぐに運らくを取り合い、さまざまな対応ができるようにしています。」「大きな災害がおきると、国や県、市町村が協力しているんだね。」「&lt;P98～99&gt;</p> <p>57【図】火山のふん火がおきたときの体制&lt;P99&gt;</p> <p>58【写真】火山から出るガスをおきたときの体制&lt;P99&gt;</p> <p>59【コラム】はるとさんのカード&lt;P101&gt;</p> <p>60【コラム】ゆいさんのカード&lt;P101&gt;</p> <p>61【コラム】れんさんのカード&lt;P101&gt;</p> <p>62【コラム】みおさんのカード&lt;P101&gt;</p> <p>63【写真】除雪のようす&lt;P101&gt;</p> <p>64【写真】熱を利用した歩道&lt;P101&gt;</p> <p>65【写真】なだれ防止さく&lt;P101&gt;</p> <p>66【写真】防災ヘリ「しらかみ」&lt;P101&gt;</p> <p>67【写真】元町港に立てられた津波ひなんマップ&lt;P103&gt;</p> <p>68【写真】火山防災マップと防災の手引&lt;P103&gt;</p> <p>69【写真】火山博物館での防災をふきゆうする活動&lt;P103&gt;</p> <p>70【本文】「大島町では、自然災害にそなえて、総合防災訓練をおこなったり、ひなん場所をかくほしたりするなど、災害に強いまちづくりをおこなっています。また、火山防災マップや防災の手引などを活用して、過去の災害教訓を今に伝えたり、防災知識をふきゆうさせたりして、「自分たちの地いは自分たちで守る」という考え方を広めています。」「&lt;P103&gt;</p>	<p>②【本文】「火山による災害だけではなく、地震や津波などの災害がおきたとき、とにかく、自分の命は自分で守ることがたいせつだと思う。」「&lt;P99&gt;</p> <p>③【本文】「わたしたちができることは、防災の手引やハザードマップなどからしっかり学んでおくことだと思います。」「どの地いきでも防災対さくがしっかりと考えられているから、わたしたちも日ごろからしっかりと学んで、自助・共助にそなえておきたいと思います。」「台風などのときは、気象情報などを見て、防災の手引にしたがった行動ができるようにします。」「もしも、わたしたちが住む地いきとは別の地いきが自然災害におそわれたら、わたしたちにできるしえんをします。そして、学校にひなんのために駆校してくる人がいたら、やさしくて友達になりたいと思います。」「&lt;P103&gt;</p>

「別紙2」【 (1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 】 (小学校 社会)

<第4学年> e 県内の文化財名や年中行事名

取り上げている文化財名・年中行事名	
発行者	
東書	①道後温泉本館(愛媛県松山市) ②ハツ鹿おどり(愛媛県宇和島市) ③太鼓祭り(愛媛県新居浜市) ④松山城(愛媛県松山市) ⑤牛おこ(愛媛県西予市明浜町) ⑥野間神社のつぎじし(愛媛県今治市) ⑦開明学校(愛媛県西予市宇和町) ⑧船御幸(愛媛県新居浜市川西地区) ⑨子ども太鼓台(愛媛県新居浜市) ⑩伊予万歳(愛媛県) ⑪松山の秋祭り(愛媛県松山市)
教出	①阿波おどり(徳島県徳島市) ②東京高円寺阿波おどり(東京都) ③阿波人形浄瑠璃(徳島県) ④えびす祭(徳島県徳島市) ⑤大山寺の力餅(徳島県上板町) ⑥大麻比古神社の神火大祭(徳島県鳴門市) ⑦白人神社の御的祭(徳島県美馬市) ⑧津峰公園桜まつり(徳島県阿南市) ⑨加茂谷鯉まつり(徳島県阿南市) ⑩五九郎まつり(徳島県吉野川市) ⑪穴喰祇園祭り(徳島県海陽町) ⑫立江八幡神社の秋祭り(徳島県小松島市) ⑬海正八幡神社の秋祭り(徳島県阿南市) ⑭日和佐八幡神社の秋祭り(徳島県美波町) ⑮箸蔵寺の秋祭り(徳島県三好氏) ⑯霊山寺の除夜の鐘(徳島県鳴門市) ⑰三木家住宅(徳島県美馬市) ⑱勝瑞獅子舞(徳島県藍住町) ⑲佐古配水場ポンプ場(徳島県徳島市) ⑳鶴林寺三重塔(徳島県勝浦町) ㉑坂州農村舞台(徳島県那賀町) ㉒祖谷のかずら橋(徳島県三好市) ㉓犬飼農村舞台(徳島県)
日文	①黒島天主堂(長崎県佐世保市) ②眼鏡橋(長崎県諫早市) ③旧鍋島家住たく(長崎県雲仙市) ④旧主藤家住たく(長崎県佐対馬市) ⑤朝鮮通信使を記念した祭り(長崎県対馬市) ⑥五島神楽(長崎県長崎市) ⑦郷ノ浦祇園山笠(長崎県杵岐市) ⑧長崎くんち(長崎県) ⑨旧グラバー住たく(長崎県長崎市) ⑩めがね橋(長崎県長崎市) ⑪諏訪神社(長崎県長崎市) ⑫三菱長崎造船所旧木型場(長崎県長崎市) ⑬軍艦島(長崎県長崎市) ⑭崇福寺(長崎県長崎市) ⑮大浦天主堂(長崎県長崎市) ⑯旧羅典神学校(長崎県長崎市) ⑰平戸城(長崎県平戸市) ⑱原の辻遺跡(長崎県香岐市) ⑲針尾の無線塔(長崎県佐世保市) ⑳ランタンフェスティバル(長崎県長崎市) ㉑ペーロン大会(長崎県長崎市) ㉒諏訪町による龍踊(長崎県長崎市) ㉓諏訪社からおりくる三体のみこし(長崎県長崎市) ㉔庭見せ(長崎県長崎市) ㉕ふえやたいこを用いたシャギリとよばれる演奏(長崎県長崎市) ㉖かさぼこ持ち(長崎県長崎市) ㉗長崎ししゅう(長崎県長崎市) ㉘元船町による唐人船(長崎県長崎市) ㉙鍛冶屋町による宝船(長崎県長崎市) ㉚今籠町による本踊(長崎県長崎市) ㉛鯨の潮吹き(長崎県長崎市万屋町) ㉜川船(長崎県長崎市魚の町) ㉝南蛮船(長崎県長崎市銅座町) ㉞宝船・七福神(長崎県長崎市鍛冶屋町) ㉟鮫太鼓(長崎県長崎市銀屋町) ㊱武蔵府中くらやみ祭(東京都府中市) ㊲子どもみこし(東京都府中市) ㊳山車のじゅん行(東京都府中市) ㊴太鼓の饗宴(東京都府中市) ㊵みこし渡御(東京都府中市) ㊶だんじり祭(大阪府岸和田市) ㊷やりまわし(大阪府岸和田市)

「別紙2」【 (1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 】 (小学校 社会)

<第4学年> f 地域の発展に尽くした先人名

発行者	取り上げている先人名
東書	①布田保之助(熊本県山都町) ②橋本勘五郎(熊本県山都町白糸台地) ③華岡青洲(和歌山県紀の川市) ④高城権八(島根県松江市) ⑤勝部本右衛門栄忠(島根県松江市) ⑥勝部本右衛門景浜(島根県松江市) ⑦江頭杉太郎(佐賀県佐賀市)
教出	①井沢弥惣兵衛(埼玉県さいたま市) ②小笠原東陽(神奈川県藤沢市) ③杉浦健造(山梨県昭和町) ④杉浦三郎(山梨県昭和町) ⑤伊波普猷(沖縄県) ⑥中山久蔵(北海道北広島市)
日文	①船田兵吾(栃木県) ②田中正造(栃木県足尾銅山) ③山本有三(栃木県) ④矢板武(栃木県那須塩原市) ⑤印南文作(栃木県那須塩原市) ⑥野中兼山(高知県香南市) ⑦南方熊楠(和歌山県田辺市) ⑧華岡青洲(和歌山県紀の川市) ⑨川端龍子(和歌山県和歌山市) ⑩二宮金次郎(尊徳)(神奈川県小田原市) ⑪荻野吟子(本名ぎん)(北海道せたな町) ⑫玉川庄右衛門(東京都玉川上水流域) ⑬玉川清右衛門(東京都玉川上水流域)

<第4学年> g 国際交流に取り組んでいる地名

発行者	国際交流に取り組んでいる地名
東書	①宮城県仙台市
教出	①福岡県福岡市 ②福岡県柳川市
日文	①岡山県総社市

「別紙2」【 (1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 】 (小学校 社会)

<第5学年> i 大量の情報や情報通信技術を活用して、国民生活を向上させている産業を取り上げている産業名

発行者	取り上げている産業名
東書	①販売業 ②運輸業 ③観光業 ④福祉産業
教出	①販売業 ②観光業 ③医療 ④福祉産業 ⑤運輸業
日文	①販売業 ②観光業 ③医療

「別紙2」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会) <第5学年> j 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の役割	警察・消防・自衛隊の働き	地域・学校の取組
<p>東書</p>	<p>①【本文】緊急地震速報のように、地震が起きる直前の備えも大切だと想います。」「緊急地震速報は、地震の大きなゆれが予想される直前に知らせられるので、自分の身を守ることができます。」「学校や県庁などの建物では、耐震工事を行って、地震に備えているんだね。」「国の会議では、大きな地震の前ぶれがないか話し合ったり、地震が起きたときの対応を検討したりしていました。」&lt;下P104～105&gt;</p> <p>②【写真】耐震工事&lt;下P105&gt;</p> <p>③【写真】中央防災会議&lt;下P105&gt;</p> <p>④【写真】緊急地震速報&lt;下P105&gt;</p> <p>⑤【写真】国土交通省の災害対策本部&lt;下P105&gt;</p> <p>⑥【コラム】緊急地震速報&lt;下P105&gt;</p> <p>⑦【本文】大きな防潮堤がつけられているニュースを見ることがあります。」「大きな地震の後に、津波警報が出されているのをテレビで見ました。」「津波災害が起こりやすい海岸の地域では、津波が来るのを防ぐ防潮堤がつけられているんだね。」「津波が来たときのために、津波ひなんタワーがつけられているところもあります。」「地震や津波などに備えて、独自の防災訓練を行っている県もあるそうです。」&lt;下P106～107&gt;</p> <p>⑧【写真】防潮堤の建設&lt;下P107&gt;</p> <p>⑨【写真】津波ひなんタワーの建設&lt;下P107&gt;</p> <p>⑩【写真】防災訓練の様子&lt;下P107&gt;</p> <p>⑪【本文】「ダムには、川などの水量を調節する役わりがあると4年生のときに学習しました。」「川の水や土砂が大量に流れ出てくるのを防ぐダムがあることがわかりました。」「大雨などで水があふれないように、放水路がつけられているんだね。」「ハザードマップは、災害が起きる前の備えができ、災害が起きたときにもひんなんの参考になると思います。」「大雨などによる被害を減らすため、さまざまな取組をしていることがわかりました。」&lt;下P108～109&gt;</p> <p>⑫【写真】砂防ダム&lt;下P109&gt;</p> <p>⑬【写真】首都圏外郭放水路&lt;下P109&gt;</p> <p>⑭【写真】河川防災ステーション&lt;下P109&gt;</p> <p>⑮【写真】ハザードマップ&lt;下P109&gt;</p> <p>⑯【コラム】ハザードマップ&lt;下P109&gt;</p> <p>⑰【図】気象庁が常に観測している火山&lt;下P110&gt;</p> <p>⑱【本文】「火山の噴火に備えて、気象庁では観測する活火山を指定するとともに、火山の噴火の前ぶれがあると警報などで知らせています。」「雪が多くふる地域では、道路のとう結やなだれの発生を防ぐなどの対策をしています。」&lt;下P110&gt;</p> <p>⑲【写真】なだれを防ぐ&lt;下P111&gt;</p>		<p>①【写真】津波記念碑&lt;下P107&gt;</p> <p>②【本文】「津波記念碑には、昔の人の教えが伝えられています。」&lt;下P107&gt;</p> <p>③【コラム】村人を津波から救った濱口梧陵&lt;下P107&gt;</p>

「別紙2」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会) <第5学年> j 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の役割	警察・消防・自衛隊の働き	地域・学校の取組
<p>教出</p>	<p>①【写真】津波避難タワーでの防災訓練&lt;P208&gt;                  ②【写真】津波からの避難場所の案内&lt;P208&gt;                  ③【写真】ハザードマップ&lt;P208&gt;                  ④【本文】「みんなの命を守るためには、だれにでも利用しやすいものにしなさいといかないね。」、【本文】「しかし、そのような場所や時間がない場合に備え、避難タワーや避難ビルなどを設置している市町村が全国各地にあります。また、市町村ごとに被害の想定や避難場所などを知らせる標識やハザードマップをつくり、すばやい避難につなげようとしています。」、「津波が堤防をこえてきても、住民の命や家を守ることでできると、土地や施設の大規模な整備を進める地域があります。」、「この被害を受け、田老地区では防潮堤を高くつくり直すだけでなく、住宅地のかさ上げや高台への移転も行っています。このような公共事業は多くの費用がかかるため、国や県も協力して進めています。」&lt;P208～209&gt;                  ⑤【コラム】国土交通省の防災担当の人の話&lt;P208&gt;                  ⑥【写真】津波に強いまちづくりを進める田老地区&lt;P209&gt;                  ⑦【図】岩手県宮古市の田老地区&lt;P209&gt;                  ⑧【コラム】住民が住み続けたいと思う町に&lt;P209&gt;                  ⑨【イラスト】自然災害に強くする改修を進める、小学校の校舎&lt;P210&gt;                  ⑩【写真】地震のゆれに強くする改修を進める、新幹線の線路の柱&lt;P210&gt;                  ⑪【写真】地震のゆれに強くする改修を進める、国や都道府県の補助を受けながら、学校や道路などの公共施設を地震のゆれに強くする改修工事を進めています。また、生活に必要な水、電気、ガスを送る設備にも、ゆれに強いしくみを取り入れています。」、「また、国が中心となって地震のゆれを観測する装置を各地に設置し、地震の発生をただちに伝えることができる「緊急地震速報」のしくみを整え、すばやい避難につなげようとしています。」、「津波も地震も完全に防ぐことはできないから、すばやい避難を進めて、火が燃え広がるのを防ごうとしているようだよ。」&lt;P210～211&gt;                  ⑬【グラフ】地震のゆれに強いしくみにした学校の数の変化&lt;P210&gt;                  ⑮【図】緊急地震速報のしくみ&lt;P211&gt;                  ⑮【写真】首都圏外郭放水路&lt;P212&gt;                  ⑯【写真】渡良瀬遊水池&lt;P212&gt;                  ⑰【写真】2015(平成27)年に完成した砂防ダム&lt;P212&gt;                  ⑱【本文】「大規模な水害に備えるには、広い土地や施設の管理が必要だね。」、「各市町村では、国や都道府県が発表した被害の予測などをもとに、さまざまな事態を想定して、ハザードマップの作成や、避難所・防災施設の整備を進めています。」&lt;P212&gt;                  ⑲【写真】なだれ防止さく&lt;P213&gt;                  ⑳【写真】全国の火山を監視する気象庁&lt;P213&gt;                  ㉑【写真】噴火による被害の様子を伝えるために残された小学校の校舎&lt;P213&gt;</p>		<p>①【本文】国や都道府県、市町村が協力し、計画的に防災対策を進めているものの、自然災害を完全に防ぐには限りがあります。減災という考えのもと、わたしたちも災害やその対策についてよく知り、備えに生かすことが大切です。」&lt;P213&gt;                  ②【コラム】防災、減災、自然災害を語りつぐ&lt;P213&gt;                  ③【写真】津波の歴史を伝える劇&lt;P213&gt;                  ④【コラム】宮古市田老地区の住民の話&lt;P215&gt;</p>

「別紙2」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会) <第5学年> j 自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の役割	警察・消防・自衛隊の働き	地域・学校の取組
<p>日 文</p>	<p>①【写真】ひなん所のようす&lt;P271&gt;                  ②【写真】砂防ダム&lt;P274&gt;                  ③【写真】防潮堤&lt;P274&gt;                  ④【写真】かさあげ工事&lt;P274&gt;                  ⑤【写真】災害時に配る食料などを備ちくしている倉庫&lt;P274&gt;                  ⑥【本文】「土しやくすれなど災害による被害を防ぐために、砂防ダムが大雨などで増えても、まちや農地などへ流れ込まないよりに高い堤防がたくらわれてるのも、その一つです。ほかにも、高潮や津波を防ぐための防潮堤や、たくさんの山の土やすな、岩が水とまじって流れ出す土石流を防ぐための砂防ダムなどがつくられています。東日本大震災の津波の被害を受けたところでは、山から大量の土しやくすれを出し、海に近い低い土地のかさあげ工事をおこなっているところもあります。」「自然災害が発生したときに備えて、ひなん路の整備やひなん場所を決めたり、水や食料などを備ちくしたりもしています。」「自然災害が発生した場合、国や市町村は、防災に関する情報を人々に伝えるしくみを整えています。国は、警報や注意報、緊急地震速報などを、直接、国民に伝えます。いっぽう、市町村は、ひなん勧告やひなん指示を出します。また、市町村などでは、ハザードマップをつくり、ふだんから住民に注意をよびかけたり、ひなん訓練をしたりしています。」&lt;P274～275&gt;                  ⑦【コラム】減災&lt;P274&gt;                  ⑧【写真】津波ひなんタワー&lt;P275&gt;                  ⑨【写真】緊急地震速報のテレビ画面&lt;P275&gt;                  ⑩【写真】ハザードマップ&lt;P275&gt;                  ⑪【コラム】大阪府の人の話&lt;P275&gt;</p>	<p>①【写真】建物から救い出された人&lt;P276&gt;                  ②【本文】「自衛隊の人が、お年寄りをボートで救助しているね。」&lt;P276&gt;</p>	<p>①【写真】ひなん訓練&lt;P275&gt;                  ②【写真】東日本大震災発生時に近所の人たちとひなんする小・中学生&lt;P276&gt;                  ③【グラフ】東日本大震災発生直後のひなん行動の内わけ&lt;P276&gt;                  ④【本文】「自然災害による被害を減らすためには、国や都道府県などの取り組み(公助)だけでなく、まず、自分の命は自分で守る(自助)ことや、近所の人たちが助け合うこと(共助)もたいせつです。岩手県釜石市では、1000人以上の人がなくなりましたが、約3000人の小・中学生のほとんどが助かりました。先生の指示でひなんしただけでなく、下校していた子どもも多くが自分の判断で、ひなんしました。そのさいに、地域の人たちにもひなんをよびかけ、多くの命を救いました。これは、これまでの防災教育の成果やひなん訓練と、「想定にとらわれない」、「最善をつくせ」、「率先してひなんせよ」の「ひなん三原則」の教えを守った結果といえます。」&lt;P276&gt;</p>

「別紙2」(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)  
 <第6学年> k 我が国の政治の働きのうち、自然災害からの復旧や復興を取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の取組	警察・消防・自衛隊の働き	その他の機関の働き
東書	<p>①【写真】気仙沼市の災害対策本部の様子&lt;政治・国際編P48&gt;                  ②【本文】宮城県気仙沼市では大きな地震の直後に災害対策本部を設けて、避難場所の開設や被害状況の確定などの指示を出しました。また、避難した住民のための水、食料、仮設トイレなども宮城県や災害相互応援協定を結んで他の県の市などに手配を要請しました。宮城県でも、被害状況をつかむための情報収集を行うとともに、自衛隊に災害時の派遣要請を行いました。また、災害救助法を適用して、必要な物資を被災地に送る準備をはじめました。」「(国(政府))は、災害対策基本法にもとづき、緊急災害対策本部を設けました。各県と連絡を取りながら、自衛隊の派遣人数の増員や、他国への救助要請、必要な物資や機材の準備を進めました。」「(国は、この緊急事態に対応するため、全国各地の消防署から緊急援助隊を派遣させました。自衛隊の災害派遣は、何度かに分けて増員され、過去最大の10万人規模となりました。)&lt;政治・国際編P48～49&gt;                  ③【コラム】災害救助法&lt;政治・国際編P48&gt;                  ④【図】災害から人々を助けた政治の働き&lt;政治・国際編P49&gt;                  ⑤【表】復旧・復興に向けた政治の働き&lt;政治・国際編P50&gt;                  ⑥【写真】第三次補正予算を議決する国会の様子(2011年)&lt;政治・国際編P50&gt;                  ⑦【コラム】東日本大震災復興基本法&lt;政治・国際編P50&gt;                  ⑧【本文】(国(政府))は、県や市と協力して復旧を進めるために、国会での話し合いを経て、第一次補正予算を成立させました。」「また、東日本大震災の復興をすみやかに進めるために、国会での話し合いを経て、東日本大震災復興基本法を成立させました。さらに、この法律にもとづいた復興を計画的に進めるため、復興庁という新しい役所を設けました。」「このように国は、必要な法律をすみやかに制定したり、特別な予算を立てたりして、被災地の支援を行います。」「なお、2013(平成25)年1月1日から2037年12月31日までの間、国民や企業は東日本大震災からの復興に役立てるための特別な税金を国に納めることになっていきます(復興特別税)。)&lt;政治・国際編P50～51&gt;                  ⑨【図】復旧・復興に向けた政治の働き&lt;政治・国際編P50&gt;                  ⑩【コラム】復旧・復興&lt;政治・国際編P51&gt;</p>	<p>警察・消防・自衛隊の働き                  ①【写真】緊急消防隊による救命・救出活動&lt;政治・国際編P49&gt;                  ②【写真】自衛隊による救命・救出活動&lt;政治・国際編P49&gt;                  ③【写真】気仙沼市のかれきを撤去する様子(2011年)&lt;政治・国際編P51&gt;</p>	<p>その他の機関の働き                  ①【写真】ボランティアによるたき出し&lt;政治・国際編P48&gt;                  ②【写真】救助活動をする中国の救援隊&lt;政治・国際編P49&gt;</p>

「別紙2」(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)  
 <第6学年> k 我が国の政治の働きのうち、自然災害からの復旧や復興を取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の取組	警察・消防・自衛隊の働き	その他の機関の働き
<p>東書</p>	<p>①【写真】震災復興会議での話し合い&lt;政治・国際編P52&gt;                  ②【写真】気仙沼大島大橋&lt;政治・国際編P53&gt;                  ③【コラム】気仙沼市役所の小野寺さんの話&lt;政治・国際編P52&gt;                  ④【図】復興に向けた取り組み&lt;政治・国際編P52&gt;                  ⑤【写真】気仙沼市の復興に向けた取り組みの流れ&lt;政治・国際編P53&gt;                  ⑥【写真】「ちよいのぞきボスター」と「漁師カレンダー」&lt;政治・国際編P54&gt;                  ⑦【写真】気仙沼の水産資源を生かした商品&lt;政治・国際編P54&gt;                  ⑧【写真】気仙沼市移住・定住支援センター&lt;政治・国際編P54&gt;                  ⑨【コラム】気仙沼市役所の小野寺さんの話&lt;政治・国際編P54&gt;                  ⑩【本文】気仙沼市では、「地方にある世界の港町」をキャッチフレーズに、水産資源を生かした商品や観光メ                  ニューの開発に取り組んでいます。また、気仙沼市にもどってくる人や、各地から移住してくる人への情報提供も、                  積極的にを行っています。」&lt;政治・国際編P54&gt;                  ⑪【写真】「奇跡の一本松」&lt;政治・国際編P55&gt;                  ⑫【本文】市では、震災復興計画を作成し、防潮堤の建設やかさ上げ工事を行い、まちの整備を進めてきまし                  た。」、「陸前高田市では、震災の事を後世に語りつぐという気持ちもこめて、復興記念公園をつくり、震災の教訓                  を未来へ伝えようとしています。」&lt;政治・国際編P55&gt;                  ⑬【写真】かさ上げ工事の様子&lt;政治・国際編P55&gt;                  ⑭【写真】大型商業施設「アバッセたかた」&lt;政治・国際編P55&gt;                  ⑮【写真】復興支援米「たかたのゆめ」&lt;政治・国際編P55&gt;                  ⑯【写真】「まちなか広場」&lt;政治・国際編P55&gt;                  ⑰【本文】大量の放射性物質がもれ出したため、政府は周辺の市町村に避難指示を出しました。」、「政府は、放                  射性物質を取り除く除染作業を進めました。そして、道路や水道などの生活を支える設備の復旧も進めました。」                  &lt;政治・国際編P57&gt;                  ⑱【図】避難指示が出された区域(2011年4月22日時点)&lt;政治・国際編P57&gt;</p>		<p>③【写真】海の市・シャークコミュニティ                  &lt;政治・国際編P52&gt;                  ④【写真】南町紫神社前商店街&lt;政治・                  国際編P52&gt;                  ⑤【コラム】まちづくり&lt;政治・国際編P53                  &gt;                  ⑥【写真】BRT(バス高速輸送システム)                  &lt;政治・国際編P53&gt;                  ⑦【コラム】気仙沼漁港の小松さんの話                  &lt;政治・国際編P53&gt;                  ⑧【写真】桜並木の下でよさこいをおどる                  人たち&lt;政治・国際編P57&gt;</p>

「別紙2」(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 【小学校 社会】  
 <第6学年> k 我が国の政治の働きのうち、自然災害からの復旧や復興を取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の取組	警察・消防・自衛隊の働き	その他の機関の働き
<p>教出</p>	<p>①【本文】釜石市は、地震発生直後に災害対策本部を市役所に設置し、連絡や移動の手段が限られている中で被害状況を調べて、県や他の市町村に協力を要請しました。岩手県は、災害救助法という法律にもとづいて、国や他の都道府県に協力を求めるとともに、自衛隊や日本赤十字社に対して救助を要請しました。また、支援物資を用意して送り出したり、通信や輸送の手段を確保したりするなど、緊急の取り組みを進めました。釜石市は、家をはなれなければならない人たちのための避難所を、学校や公民館などの公共施設に設けて、水や食料など緊急に必要な物資を運び入れました。1、「震災の8日後には仮設住宅の建設が始まり、1か月後から入居が開始されました。2か月後には電気が、4か月後には水道がほぼ復旧されました。」&lt;P50～51&gt;</p> <p>②【図】被災した地域を支援する政治のしくみ&lt;P51&gt;</p> <p>③【写真】釜石市と岩手県庁の災害対策本部が行ったテレビ電話による会議の様子&lt;P51&gt;</p> <p>④【写真】避難所を訪問される天皇陛下&lt;P51&gt;</p> <p>⑤【写真】仮設住宅&lt;P51&gt;</p> <p>⑥【本文】津波によって特に大きな被害を受けた学校は、他の学校に場所を借りて授業を再開し、震災から約1年後に、組み立て式の仮設校舎へと移りました。市では、震災からの一日も早い復興と、新しいまちづくりのために、「復興まちづくり基本計画」をつくることにしました。1、「また、市は、懇談会などを開いて、市民の願いを計画づくりに生かしていきました。こうして完成した「復興まちづくり基本計画」は、市議会で検討され、2011(平成23)年12月に決定されました。この計画にもとづいて、市内の地区ごとにさらに具体的な計画を立てて、まちづくりを進めていきました。1、「国は、被災した地域の復興を速やかに進めるために、2011年、東日本大震災復興基本法や復興庁設置法をつくり、その翌年に復興庁を発足させました。そして、一般の予算とは別に、復興に向けた予算として震災からの5年間に約26兆円の資金を投入しました。」&lt;P52～53&gt;</p> <p>⑦【写真】復興まちづくり委員会&lt;P52&gt;</p> <p>⑧【写真】まちづくりについて市民の意見をきく懇談会&lt;P52&gt;</p> <p>⑨【写真】仮設校舎の小学生&lt;P52&gt;</p> <p>⑩【図】復興に向けた市の計画ができるまで&lt;P53&gt;</p> <p>⑪【コラム】東日本大震災復興基本法&lt;P53&gt;</p> <p>⑫【コラム】復興庁&lt;P53&gt;</p> <p>⑬【写真】防波堤を再建する工事&lt;P54&gt;</p> <p>⑭【写真】高台に整えられた宅地&lt;P54&gt;</p> <p>⑮【写真】高台に完成した新しい小・中学校の校舎&lt;P54&gt;</p> <p>⑯【本文】釜石湾の海中の防波堤は、津波で破壊されましたが、津波の市街地への流入をおくせたり高さをかさえたりする役割を果たしたことがわかったため再建されました。津波の危険がある地域では、土地を高くするかさ上げ工事が行われたり、住宅を移転するために高台に宅地が整えられました。家を失った人々のための公営住宅も次々に建てられて、2017(平成29)年までに約1300戸が完成しました。仮設校舎の小・中学校は、高台に完成した新しい校舎へと移転しました。1、「災害が発生したときに備えた体制をつくったり、災害に関する情報を提供したりすることなどは、国全体で進めています。」&lt;P54～55&gt;</p>	<p>警察・消防・自衛隊の働き</p> <p>①【写真】避難する人々を救助する自衛隊員&lt;P49&gt;</p> <p>②【写真】支援物資を運ぶ自衛隊員&lt;P50&gt;</p> <p>③【本文】「市や県の取り組みだけでなく、全国から派遣された警察や消防、自衛隊など大勢の人々が、被災した人々の捜索や救護にあたりました。」&lt;P51&gt;</p>	<p>その他の機関の働き</p> <p>①【本文】多くのボランティアが被災地に入り、市と協力しながら支援活動も行いました。支援物資も、国の内外から続々と届けられました。」&lt;P51&gt;</p> <p>②【写真】避難所で炊き出しをするボランティアの人々&lt;P51&gt;</p> <p>③【本文】津波は、漁船や漁港の施設にも大きな被害をおよぼしましたが、漁港にたずさわわる人々は、困難な中でも生活をしていくために仕事を再開しました。」&lt;P52&gt;</p> <p>④【本文】「市内の漁港と魚市場や水産加工施設などを整える工事も、2017年までにほぼ完了しました。」&lt;P54&gt;</p> <p>⑤【写真】避難階段を使って行われた津波からの避難訓練&lt;P55&gt;</p> <p>⑥【コラム】自分たちの安全は自分たちで守る&lt;P55&gt;</p> <p>⑦【写真】小学生を導きながら津波から避難する中学生たち(2011年3月11日)&lt;P55&gt;</p>

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)  
 <第6学年> k 我が国の政治の働きのうち、自然災害からの復旧や復興を取り上げているページの扱い

発行者	国・地方公共団体の取組	警察・消防・自衛隊の働き	その他の機関の働き
<p>日 文</p>	<p>①【コラム】復旧・復興&lt;P39&gt;                  ②【図】災害が発生した直後の政治のはたらき&lt;P40&gt;                  ③【写真】災害対策本部のようす&lt;P40&gt;                  ④【本文】広島市では、まず、災害対策基本法にもとづき、災害対策本部を設置しました。人命救助を第一にしなから、被害状況の確認や避難所の開設などをおこないました。また、被災した住民への対応を急ぐために、災害時相互応援協定などにもとづいて、他の市などへ支援を要請しました。広島市も市の要請にもとづき、自衛隊に災害派遣要請を出すとともに、協定を結んでいる他の都道府県の警察や消防などにも、救助活動の協力を要請しました。国は、県や市と協力しながら人命救助活動に全力をあげました。また、復旧・復興に向けて法律上の整理などをしながら、国としてできる支援をおこないました。被災地では、被災した人たちのために、学校や公民館などへの取り組みがなされました。」「また、被災した人たちの住居の確保や、土砂の撤去、資金援助など復旧に向け⑤【コラム】災害対策本部&lt;P40&gt;                  ⑥【コラム】災害時相互応援協定&lt;P40&gt;                  ⑦【コラム】広島市社会福祉協議会の田畑さんの話&lt;P41&gt;                  ⑧【イラスト】復興まちづくりのイメージ&lt;P42&gt;                  ⑨【写真】砂防ダム&lt;P42&gt;                  ⑩【表】復興まちづくりビジョンの基本方針&lt;P42&gt;                  ⑪【本文】国と県、市がまず協力して進めたのは、砂防ダムの建設でした。」「また、市では「復興まちづくりビジョン」として、災害発生からおおよそ10年間をかけて、災害に強いまちづくりを進めています。砂防ダムのほかに、市では避難路の整備、雨水排水施設などの整備、住宅再建の支援に取り組んでいます。」「国や県、市が砂防ダムの建設をしているね。みんなの生活や命を守るためにも、税金が使われているんだね。」「&lt;P42～43&gt;</p>	<p>①【写真】自衛隊や警察、消防による復旧活動&lt;P40&gt;</p>	<p>①【本文】「そこで水や食料などの支援物資の配給や、さまざまな地域からやってきた災害ボランティアによる支援がおこなわれました。」「&lt;P41&gt;                  ②【コラム】災害ボランティアセンター&lt;P41&gt;                  ③【写真】活動するボランティアの人たち&lt;P41&gt;                  ④【表】土砂災害が発生したときのボランティアによるおもな活動&lt;P41&gt;                  ⑤【写真】災害の経験を生かす取り組み&lt;P43&gt;                  ⑥【コラム】地域の人たちがつづけた復興交流館「モンドラゴン」&lt;P43&gt;                  ⑦【写真】復興交流館「モンドラゴン」と、広島風お好み焼きを焼く人たち&lt;P43&gt;</p>

「別紙2」【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> | 国家・社会の発展に大きな働きをした先人名

発行者	古代	中世	近世	近代	現代	
東書	<p>聖徳太子 小野妹子 聖徳太子(天智天皇) 中大兄皇子(天智天皇) 中臣鎌足(藤原鎌足)</p> <p>上臈良 文武天皇 聖武天皇 行基 鑑真 藤原道長 藤原式部 清少納言 紀貫之 藤原清衡 藤原基衡 藤原秀衡 藤原基衡 藤原基衡</p>	<p>源義家 平清盛 後白河天皇 安徳朝 源義経 北条政子 北条時宗 竹崎季長 北条時宗</p> <p>足利尊氏 足利義満 足利義政 雪舟 大内政弘 観阿弥 世阿弥</p>	<p>織田信長 豊臣秀吉 徳川家康 武田勝頼 フランシスコ・ザビエル コロンブス マゼラン バスコ・ダ・ガマ 明智光秀 石田三成 徳川家光 徳川家綱 徳川家光(益田時貞) シヤクシャイン 土佐光茂</p>	<p>葛籬北齋 杉田玄白 本居宣長 近松左衛門 歌川広重 マネ ゴッホ 前野良沢 伊能忠敬 大塩平八郎</p> <p>ベリ― 大久保利通 西郷隆盛 木戸孝允 徳川慶喜 坂本竜馬 勝海舟 明治天皇 福沢諭吉 津田梅子 棚田嘉十郎 溝辺文四郎 板垣退助 大隈重信 伊藤博文</p>	<p>陸奥宗光 東郷平八郎 乃木希典 与謝野晶子 小村寿太郎 北里柴三郎 志賀潔 野口英世 夏目漱石 樋口一葉 樋口素子 正岡子規 新渡戸稲造 田中正造 平塚らいてう 市川房枝 高木兼寛 ナイチンゲール ヒトラ― アンネ・フランク 杉原千畝 昭和天皇</p>	<p>大隅良典</p>

「別紙2」【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> | 国家・社会の発展に大きな働きをした先人名

発行者	古代	中世	近世	近代	現代		
聖徳太子(既戸王) 小野妹子 中大兄皇子(天智天皇) 中臣鎌足(藤原鎌足) 聖武天皇 行基 鑑真 藤原式部 柴少納言 菅原道真	平清盛 源頼朝 源義仲 源義経 北条政子 北条時宗 チンギス・ハン 竹崎季長	足利義満 足利義政 雪舟 観阿弥 世阿弥	織田信長 徳川家康 武田勝頼 豊田秀吉 明智光元 今川義元 ザビエル 斎藤龍興 朝倉義景 淺井長政 徳川秀忠 バリニヤーン 伊東マンジヨ コロンプス バスコ・ダ・ガマ マゼラン 徳川家光 天草四郎(益田時貞) シヤクシヤイン	近松門左衛門重蕉 歌川芭蕉 松尾芭蕉 葛洲斎写楽 ゴッホ 竹本義太夫 杉田玄白 前野良沢 本居宣長 伊能忠敬 緒方洪庵 大塩平八郎 吉田松陰 シーボルト 広瀬淡窓 徳川吉宗 大岡忠相 青木昆陽	ベリール 木戸孝允(桂小五郎) 西郷隆盛 大久保龍馬 坂本龍馬 徳川慶舟 勝海舟 岩倉具視 山口文相 伊藤博文 津田梅子 津田栄一 渡辺栄吉 福沢諭吉	陸奥宗光 板垣退助 大隈重信 榎本重喜 明徳天皇 東郷平八郎 乃木希典 与謝野晶子 小村寿太郎 田中正造 北里柴三郎 志賀潔 野口英世 平塚らいてう 新渡戸稲造 山田孝野次郎 後藤新平 石川倉次 南方熊楠 昭和天皇 杉原千畝 ヒトラー	オバマ大統領 湯川秀樹 朝永振一郎 川端康成 江崎玲於奈 佐藤栄作 福井謙一 利根川進 大江健三郎 白川英樹 野依良治 小柴昌俊 田中耕一郎 南部陽一郎 小林誠 益川敏英 下村脩 鈴木章 根岸英一 山中伸弥 赤崎勇 天野浩二 梶田隆章 中村修二 梶田隆智 大隅良典 カズオ・イシグロ
教出							

「別紙2」【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

＜第6学年＞ I 国家・社会の発展に大きな働きをした先人名

発行者	古代	中世	近世	近代	現代		
日文	<p>聖太子 小野妹子 中大兄皇子(のちの天智天皇) 中臣鎌足(のちの藤原鎌足) 聖武天皇 行基 鑑真 阿倍仲麻呂 藤原道長 菅原道真 菅原式部 紫式部 清少納言</p>	<p>足利尊氏 足利義満 足利義政 鶴阿弥 世阿弥 雪舟 舟慶</p>	<p>織田信長 豊臣秀吉 徳川家康 武田勝頼 今川義元 明智光秀 フランシスコ＝ザビエル 石田三成 徳川家光 益田時貞(天草四郎) シヤクシヤイン 雨森芳洲</p>	<p>近松門左衛門 歌川広重 ゴッホ 本居宣長 杉本玄白 前野良沢 伊能忠敬</p>	<p>ペリー 大塩平八郎 西郷隆盛 大久保孝允 木戸孝吉 徳川慶喜 勝海舟 岩倉具視 坂本龍馬 板垣退助 伊藤博文 山口尚芳 福沢諭吉</p>	<p>大隈重信 陸奥宗光 小村寿太郎 東郷平八郎 与謝野晶子 北里柴三郎 コッホ 野口英世 津田梅子 田中正造 平塚らいてう(らいちやう) 山田孝野次郎 斎藤隆夫 昭和天皇</p>	<p>野村万作 マッカーサー 湯川秀樹 朝永振一郎 川端康成 江崎玲於奈 佐藤栄作 福井健一 利根川進 大江健三郎 白川英樹 野依良治 小柴昌俊 田中耕一 南部陽一郎 小林誠 益川敏英 下村脩 鈴木章 根岸英一 山中伸弥 赤崎勇 天野浩 中村修二 梶田隆章 大村智 大隅良典 カズオ・イシグロ</p>

「別紙2」【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> m 国宝、重要文化財、世界文化遺産等、国家・社会の発展を象徴する文化遺産名

発行者	古代			中世			近代			現代(その他)		
	土偶 ・熊本県江田船山古墳から出土した鉄刀 ・埼玉県稲荷山古墳から出土した鉄剣	法隆寺 ・正倉院 ・鑑真像 ・唐招提寺 ・大和絵(源氏物語絵巻) ・かな文字で書かれた寸松庵色紙 ・中尊寺金色堂 ・中尊寺金色堂内陣 ・毛越寺の庭園	貴族を守る武士 ・平家納経 ・厳島神社 ・神奈川県鎌倉市	金閣 ・銀閣 ・書院造の部屋(東求堂) ・雪舟がえがいたすみ絵(天橋立図) ・雪舟の作品(四季花鳥図) ・高安寺の石庭 ・田植えの様子(月次風俗図屏風) ・能楽	石見銀山 ・日光東照宮の陽明門 ・復元された首里城	高麗家住宅 ・旧開智学校 ・官営富岡製糸場	原爆ドーム	和食 ・「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 ・紀伊山地の霊場と参詣道 ・姫路城 ・富士山—信仰の対象と芸術の源泉— ・白川郷・五箇山の合掌造り集落 ・明治日本の産業革命遺産 ・ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—				
東書	土器 ・縄文土器(新潟県出土) ・土偶(青森県出土) ・管玉と銅剣(吉野ヶ里遺跡) ・銅たぐ(香川県出土) ・はにわ(群馬県出土) ・江田船山古墳から出土した鉄刀 ・稲荷山古墳から出土した鉄剣 ・金印	法隆寺 ・東大寺の大仏殿 ・東大寺の大仏 ・正倉院(正倉) ・鑑真 ・藤原道長(紫式部日記絵詞) ・大和絵(源氏物語絵巻) ・平等院鳳凰堂 ・熊野本宮大社	厳島神社 ・中尊寺金色堂の内部	金閣 ・銀閣 ・雪舟から見た東求堂 ・雪舟がえがいた「天橋立」 ・龍安寺 ・田植えをしているそばで田薬をおどる人(月次風俗図屏風) ・室町時代の祇園祭(洛中洛外図屏風) ・能の舞台	石見銀山 ・日光東照宮の陽明門 ・復元された首里城	高麗家住宅 ・旧開智学校 ・官営富岡製糸場	原爆ドーム	和食 ・「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 ・紀伊山地の霊場と参詣道 ・姫路城 ・富士山—信仰の対象と芸術の源泉— ・白川郷・五箇山の合掌造り集落 ・明治日本の産業革命遺産 ・ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—				
教出	銅鐸(香川県出土)と銅鐸こえがかかれた絵 ・江田船山古墳(熊本県)から出土した鉄刀 ・稲荷山古墳(埼玉県)から出土した鉄剣	法隆寺 ・東大寺の大仏殿 ・東大寺の大仏 ・正倉院(正倉) ・鑑真 ・藤原道長(紫式部日記絵詞) ・大和絵(源氏物語絵巻) ・平等院鳳凰堂 ・熊野本宮大社	厳島神社 ・中尊寺金色堂の内部	金閣 ・銀閣 ・雪舟から見た東求堂 ・雪舟がえがいた「天橋立」 ・龍安寺 ・田植えをしているそばで田薬をおどる人(月次風俗図屏風) ・室町時代の祇園祭(洛中洛外図屏風) ・能の舞台	石見銀山 ・日光東照宮の陽明門 ・復元された首里城	高麗家住宅 ・旧開智学校 ・官営富岡製糸場	原爆ドーム	和食 ・「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 ・紀伊山地の霊場と参詣道 ・姫路城 ・富士山—信仰の対象と芸術の源泉— ・白川郷・五箇山の合掌造り集落 ・明治日本の産業革命遺産 ・ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—				
日文	銅鐸(香川県出土)と銅鐸こえがかかれた絵 ・江田船山古墳(熊本県)から出土した鉄刀 ・稲荷山古墳(埼玉県)から出土した鉄剣	法隆寺 ・東大寺の大仏殿 ・東大寺の大仏 ・正倉院(正倉) ・鑑真 ・藤原道長(紫式部日記絵詞) ・大和絵(源氏物語絵巻) ・平等院鳳凰堂 ・熊野本宮大社	厳島神社 ・中尊寺金色堂の内部	金閣 ・銀閣 ・雪舟から見た東求堂 ・雪舟がえがいた「天橋立」 ・龍安寺 ・田植えをしているそばで田薬をおどる人(月次風俗図屏風) ・室町時代の祇園祭(洛中洛外図屏風) ・能の舞台	石見銀山 ・日光東照宮の陽明門 ・復元された首里城	高麗家住宅 ・旧開智学校 ・官営富岡製糸場	原爆ドーム	和食 ・「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 ・紀伊山地の霊場と参詣道 ・姫路城 ・富士山—信仰の対象と芸術の源泉— ・白川郷・五箇山の合掌造り集落 ・明治日本の産業革命遺産 ・ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—				

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> n 我が国の歴史上の主な事象における、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題など、国内外に残されている課題等について取り上げているページの扱い

発行者	自然災害からの復興	少子高齢化の問題	環境問題	その他
東書	<p>①【本文】世界でも有数の地震国といわれる日本では、平成に入り、大きな自然災害があいつついで発生しました。1995年には阪神・淡路大震災、2011年には東日本大震災が発生しました。東日本大震災では、地震により津波が発生し、東北地方から関東地方にかけての太平洋沿岸の広い範囲に大きな被害をもたらしました。」&lt;歴史編P151&gt;</p> <p>②【写真】阪神・淡路大震災&lt;歴史編P151&gt;</p> <p>③【写真】熊本地震の復興を願い、ライトアップされた熊本城&lt;歴史編P151&gt;</p> <p>④【コラム】クラスで話し合うために出した問題の例「防災に向けた取り組み」&lt;歴史編P152&gt;</p>	<p>①【本文】「また、日本の人口は、2008年をピークに減少に転じ、少子高齢化も急速に進んでいます。」&lt;歴史編P150&gt;</p> <p>②【コラム】クラスで話し合うために出した問題の例「少子化や高齢化、社会保障の問題」、「お年寄りや障がいのある人たちの権利」&lt;歴史編P152&gt;</p>	<p>①【写真】地球サミット&lt;歴史編P150&gt;</p> <p>②【本文】「地球環境問題など、解決しなければならぬ課題もあります。」&lt;歴史編P150&gt;</p>	<p>①【コラム】クラスで話し合うために出した問題の例「女性の権利や社会参加の参加をめぐる問題」、「アイヌ民族、在日韓国・朝鮮人、外国人への偏見や差別の問題」&lt;歴史編P152&gt;</p> <p>②【コラム】アメリカ軍基地が残る沖縄&lt;歴史編P153&gt;</p> <p>③【コラム】アイヌの伝統文化を守るために&lt;歴史編P153&gt;</p>

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> n 我が国の歴史上の主な事象における、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題など、国内外に残されている課題等について取り上げているページの扱い

発行者	自然災害からの復興に関する記述	少子高齢化の問題に関する記述	環境問題に関する記述	その他
<p>教出</p>	<p>①【表】今の日本の社会の課題(例)「自然災害からの復興」&lt;P231&gt;</p>	<p>①【表】今の日本の社会の課題(例)「人口の減少」&lt;P231&gt;</p>	<p>①【表】今の日本の社会の課題(例)「原子力発電所の事故からの復興」&lt;P231&gt; ②【表】今の日本の社会の課題(例)「自然環境や資源をめぐる課題」&lt;P231&gt;</p>	<p>①【コラム】沖縄のアメリカ軍基地「祖国復帰を目ざす運動がねばり強く続けられ、1972年、沖縄は日本に復帰しました。しかし、沖縄には現在でも、県の面積の約8%をしめる広さのアメリカ軍基地が残されています。そして、軍用機の事故など住民に不安をあたえるできごとが起こっており、基地の縮小や県外への移設を求める住民の運動が続いています。」&lt;P227&gt; ②【写真】沖縄のアメリカ軍基地&lt;P227&gt;</p>

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> n 我が国の歴史上の主な事象における、自然災害からの復興、少子高齢化の問題、環境問題など、国内外に残されている課題等について取り上げているページの扱い

発行者	自然災害からの復興に関する記述	少子高齢化の問題に関する記述	環境問題に関する記述	その他
日文	<p>①【写真】東日本大震災での自衛隊の救助活動&lt;P226&gt;                  ②【写真】熊本地震での支援ボランティア&lt;P226&gt;                  ③【本文】「また、大規模な自然災害への対応などの課題もあります。」&lt;P226&gt;</p>	<p>①【本文】「日本では、少子高齢化が進み、人口が減っています。」&lt;P226&gt;</p>	<p>①【本文】「1997年に京都で開催された地球温暖化防止会議では、世界の国々が協力して温暖化防止に取り組むことを確認しました。」&lt;P223&gt;                  ②【写真】地球温暖化防止会議&lt;P223&gt;</p>	<p>①【本文】「沖繩は、1972(昭和47)年5月15日にアメリカから日本へ復帰しました。戦争が終わってから27年後のことでした。しかし、アメリカ軍基地は残されたままで、安全性や騒音などの問題は、大きな課題として残されています。」&lt;P224&gt;                  ②【写真】不着し炎上したアメリカ軍のヘリコプター(沖繩県)&lt;P224&gt;                  ③【写真】障がいがある人が働く職場&lt;P226&gt;                  ④【本文】「社会で働く障がいのある人たちも増えています。」&lt;P226&gt;                  ⑤【本文】「日本国憲法の基本的人権の学習や、これまでの歴史学習で学んだように、差別を許さない運動や取り組みが広がっています。しかし、日常生活や結婚・就職などで人権がおかされている事実があります。また、先住民のアイヌ民族や、在日韓国・朝鮮人に対する偏見や差別もあります。」&lt;P226&gt;                  ⑥【コラム】アイヌ民族について&lt;P226&gt;                  ⑦【本文】「また、世界では、民族や宗教の対立、うえや人権侵害などの課題もあります。」&lt;P226&gt;                  ⑧【写真】空爆からにげる人々&lt;P226&gt;</p>

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> p 国際社会において我が国が果たしている役割を取り上げているページの扱い

発行者	政府・省庁・自衛隊	ODA(JICA・青年海外協力隊等)	非政府組織(NGO)・その他
<p>東書</p>	<p>①【写真】日本人女性初の国連事務次長となった中満泉さん&lt;政治・国際編P102&gt;                  ②【図】国連分担金の国別割合&lt;政治・国際編P102&gt;                  ③【本文】「日本は、国連に1956(昭和31)年に加盟し、その一員として大きな役割を果たしてきました。国連の活動にかかわる日本人も増えてきています。」&lt;政治・国際編P102&gt;                  ④【コラム】国際連合「日本は、アメリカについて多くの分担金を出し、国連の活動を支えています。」&lt;政治・国際編P102&gt;                  ⑤【本文】「日本は、国連の一員として、世界各地の平和維持活動に参加してきました。」&lt;政治・国際編P103&gt;                  ⑥【本文】「日本は、原子爆弾の被害を受けた世界でただ一つの国として、平和の大切さと軍備の縮小を世界の人々にうたえています。」&lt;政治・国際編P103&gt;                  ⑦【写真】国連の平和維持活動に参加する自衛隊&lt;政治・国際編P103&gt;                  ⑧【本文】「日本もこうした国際的な取り組みに参加しています。また、国内各地でも、環境を守るためのさまざまな取り組みがなされています。」&lt;政治・国際編P105&gt;                  ⑨【写真】ユネスコスクールのとして、環境保全に取り組む宮城県気仙沼市の小学校の子どもたち&lt;政治・国際編P105&gt;</p>	<p>①【写真】青年海外協力隊の活動「リハビリの指導」&lt;政治・国際編P106&gt;                  ②【写真】青年海外協力隊の活動「農作業の指導」&lt;政治・国際編P106&gt;                  ③【グラフ】派遣された人たちの人数&lt;政治・国際編P106&gt;                  ④【本文】「ODA(政府開発援助)は、政府による国際協力の活動です。社会環境が十分に整備されていない国に対し、資金や技術を提供しています。青年海外協力隊は、日本のODAの活動の一つです。教育や医療、農業などの分野で自分の知識や技術を生かしたという意欲をもった人たちが、アジアやアフリカ、中・南アメリカなどの発展途上の国や地域で活やくしています。」&lt;政治・国際編P106&gt;                  ⑤【コラム】国際協力&lt;政治・国際編P106&gt;                  ⑥【コラム】セネガルで活動した清水さんの話&lt;政治・国際編P106&gt;</p>	<p>①【写真】洪水の緊急支援で医療活動を行う「AMDA」の人々&lt;政治・国際編P107&gt;                  ②【写真】子ども達に地雷や不発弾の被害にあわせないための教育を行う「難民を助ける会」の職員&lt;政治・国際編P107&gt;                  ③【本文】「NGO(非政府組織)は、国連や各国の政府から独立して活動している民間の団体です。その活動は、主に募金や寄付金、ボランティアなどで支えられています。日本にも医療や環境など、専門性を生かした分野で活やくしている多くの団体があり、世界各国で様々な国際協力の活動を行っています。」&lt;政治・国際編P107&gt;                  ④【コラム】NGOレポート&lt;政治・国際編P107&gt;                  ⑤【写真】パキスタンでの研修の様子&lt;政治・国際編P107&gt;</p>

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> p 国際社会において我が国が果たしている役割を取り上げているページの扱い

発行者	政府・省庁・自衛隊	ODA(JICA・青年海外協力隊等)	非政府組織(NGO)・その他
<p>教出</p>	<p>①【コラム】ユニセフの職員として海外で働く井本直歩さんの話&lt;P261&gt;                  ②【コラム】ユニセフと日本&lt;P261&gt;                  ③【写真】ユニセフの被災地に届けられた文房具のセットを受け取る子どもたち(2011年 宮城県)&lt;P261&gt;                  ④【本文】「日本は、1956年に国連に加盟しました。現在では、多くの活動費用を負担するなどして国連の活動を支えています。」「日本は国連の活動を支える中心の国の一つとして、世界の平和のために貢献しているんだね。」「日本は、世界でゆいっつ原子爆弾の被害を受けた国として、国連でも、核兵器のおそろしさや核兵器廃絶の大切さを世界にうったえる取り組みを続けています。」「&lt;P262~263&gt;                  ⑤【グラフ】国連の活動費用の負担割合(2016~2018年国連広報センター)&lt;P262&gt;                  ⑥【写真】国連の平和維持活動(PKO)に参加した日本の自衛隊&lt;P265&gt;                  ⑦【写真】スポーツ施設の屋根に設けられた太陽光の発電パネル「太陽光、風力、地熱などのエネルギーは、自然界で再生が可能で、温暖化や大気汚染にもつながらないことなどから、日本でも研究・開発が進められています。」「&lt;P265&gt;                  ⑧【写真】井本直歩さん&lt;P270&gt;</p>	<p>①【写真】カンボジアの浄水場で現地の職員に指導する北九州市水道局の職員&lt;P266&gt;                  ②【図】青年海外協力隊が活動している地域(国際協力機構 2017年12月現在)&lt;P266&gt;                  ③【写真】稲を植える機械を現地の職員と試す青年海外協力隊(&lt;P266&gt;                  ④【本文】「こうした状況を改善するために、日本は、安全できれいな水を安定して供給するための井戸の建設や水道の整備に協力しています。」「このように、政府が、支援を必要とする国々に対して、社会の発展や福祉の向上のために資金や技術を提供して行う援助を、政府開発援助(ODA)といいます。国際協力機構(JICA)は、日本のODAの実施機関で、青年海外協力隊や、40~69才の人たちが参加するシニア海外ボランティアは、その中の事業の一部です。」「&lt;P266&gt;                  ⑤【コラム】国境をこえてともに助け合うー東日本大震災「日本はこれまで、自然災害で被害を受けた地域への支援活動や政府開発援助などを通して、積極的に世界各国を支援してきました。」「&lt;P267&gt;</p>	<p>①【写真】アフガニスタンからの難民を診療する中村さん&lt;P256&gt;                  ②【写真】パキスタンの山岳部での移動診療&lt;P256&gt;                  ③【本文】「医師の中村哲さんは、1984(昭和59)年から、パキスタンの北部にあるまちペシャワールで、ハンセン病患者の治療に取り組んできました。」「中村さんたちは、アフガニスタンからの難民の治療も行いながら、しだいに、国境をこえて、アフガニスタンの医療活動を広げていきました。」「こうした中村さんの活動を支援しているのが、日本のNGO(非政府組織)であるペシャワール会です。」「&lt;P256&gt;                  ④【写真】現地の人々と協力して井戸をほるペシャワール会のスタッフ&lt;P257&gt;                  ⑤【写真】干ばつで砂漠化していったところと、用水路がひらかれて緑がもどったあとの土地の様子&lt;P257&gt;                  ⑥【コラム】中村さんの話&lt;P257&gt;                  ⑦【写真】用水路をほる人々「用水路づくりに、日本の伝統的な土木工法が生かされています。」「&lt;P258&gt;                  ⑧【写真】機械を操作して用水路の工事を進める中村さん&lt;P258&gt;                  ⑨中村さんたちが現地に建設・寄贈したイスラム教のモスク&lt;P258&gt;                  ⑩【本文】「このとき、中村さんたちは、国内の避難民に緊急の食料を配る活動を行いました。」「中村さんたちは、アフガニスタンで、人々が平和な暮らしを営み続けていくこと、独自の文化や伝統が尊重されることを願いながら、活動を積み重ねてきています。」「&lt;P258&gt;                  ⑪【写真】大地震後の救助活動にあたる日本の国際緊急援助隊&lt;P259&gt;                  ⑫【写真】現地の人々と協力して医療活動にあたる日本人医師&lt;P259&gt;                  ⑬【写真】地雷の処理に使われる日本製の機械&lt;P259&gt;                  ⑭【コラム】子どもたちの誓いー広島から世界へ向けて&lt;P269&gt;                  ⑮【写真】代表して「平和への誓い」を読みあげる小学校6年生の二人(2017年)&lt;P269&gt;                  ⑯【コラム】平和への誓い&lt;P269&gt;                  ⑰【写真】中村哲さん&lt;P270&gt;</p>

「別紙2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容】(小学校 社会)

<第6学年> p 国際社会において我が国が果たしている役割を取り上げているページの扱い

発行者	政府・省庁・自衛隊	ODA(JICA・青年海外協力隊等)	非政府組織(NGO)・その他
<p>日 文</p>	<p>①【写真】南スーダンで活動する自衛隊員&lt;P258&gt;                  ②【コラム】対地雷全面禁止条約「日本は、この条約に従い、それまで保有していた100万個の対地雷を処理しました。」&lt;P258&gt;                  ③【本文】アフリカのスーダンでは、長く国内の紛争が続いていますが、2005(平成17)年に終わりました。この状態を保つことを目的として、国連が活動をはじめ、2008年からは日本の自衛隊も活動に参加しました。2011年には南スーダンが独立し、以後、この地域の平和と安全を守ること、南スーダンの発展のために、国連はさまざまな支援をおこないました。自衛隊も、国連施設の整備や道路の補修などをおこない、国連の活動に参加しました。」&lt;P258&gt;                  ④【本文】「わたしたちは学校で、ユニセフの募金活動をしたことがあるよ。」&lt;P259&gt;                  ⑤【本文】「1997(平成9)年、京都で開かれた国際会議では、各国が協力して温室効果ガスの排出を減らすことが決められていました。2015年には、フランスのバリで、地球温暖化対策の国際会議が開かれ、2020年以降、引き続き、各国が協力していくことが確認されました。」&lt;P260&gt;                  ⑥【写真】地球環境について話し合う国際会議&lt;P260&gt;                  ⑦【本文】「これは、国連に加盟するすべての国が、2016年から2030年までに、貧困やうえ、地球環境、平和などの問題について、持続可能な開発のために目標を立て、それを達成すべく力をつくそうとするものです。」&lt;P261&gt;</p>	<p>①【写真】音楽を教える青年海外協力隊員&lt;P262&gt;                  ②【写真】農業技術を指導する青年海外協力隊員&lt;P262&gt;                  ③【コラム】活動中の青年海外協力隊員の数(2017年 国際協力機構調べ)                  ④【本文】「青年海外協力隊」は、日本の国際協力をおこなう組織である国際協力機構(JICA)の事業の一つで、発展途上国に出向き、その国で必要とされる手助けをし、発展させる活動をしています。」、「こうした国々に対して、日本は、進んだ農業技術を伝えたり、施設を整備したりする援助をおこなってきました。なかでも、うえに苦しむ人が多くいるアフリカの国々には、日本の援助によって稲作を盛んにし、米の生産量を増やそうとしています。」、「青年海外協力隊は、教育や農業以外にも、多くの分野で国際協力をおこなっているね。」、「日本の技術が海外で役に立っていることは、すばらしいね。うえや病気に苦しむ人がいなくなるといいね。」&lt;P262～263&gt;                  ⑤【コラム】結核研究所「海外から研修に訪れる人も多く、国際協力機構が主催する研修を中心に、これまでに97か国2000人以上の人が結核に関する研修を受けました。」&lt;P263&gt;                  ⑥【表】海外で役に立っている日本のおもな技術&lt;P263&gt;</p>	<p>①【本文】「現在、このような人たちに医療援助をおこなっている「国境なき医師団」という団体があります。どこの国であろうと、医療援助を必要とする人がいるかぎり、自分たちで決めた心に従って活動することを基本としています。日本にも支部があり、2016(平成28)年には、地震や伝染病などによる被害を受けた70の国と地域で活動しました。2011年の東日本大震災のときには、地震発生の翌日には現地に入り、医療活動をおこないました。」&lt;P263&gt;                  ②【写真】東日本大震災の被災者の診察をおこなう国境なき医師団の医師(宮城県)&lt;P263&gt;</p>

発行者名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他(領土の範囲等)
<p>東書</p>	<p>「世界のの中の国土」                      ・【写真】択捉島「北海道、本州、四国、九州に次ぐ大きさの島です。」&lt;5年上P13&gt;                      ・【本文】「北海道の北東に続く歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島は、日本固有の領土です。ところが、80年ほど前におきた太平洋戦争が終わったあとソビエト連邦が占領し、その後ソビエト連邦をひきついでロシア連邦が不法に占領しています。日本政府は、これらの島を返すように求めて、交しようを続けています。」&lt;5年上P14&gt;                      ・【写真】根室から見える歯舞群島&lt;5年上P15&gt;                      ・【図】北方領土の位置「北方領土が1日も早く日本にもどることが、わたしたち日本人の願いです。」&lt;5年上P15&gt;</p>	<p>「新しい日本、平和な日本へ」                      ・【コラム】まわりの国と日本「大韓民国(韓国)とは、1956年に朝鮮半島を代表する政府として条約を結び、国交を正常化して友好関係を深めています。一方で、日本固有の領土である竹島を、韓国は1954年から不法に占拠しており、日本は抗議を続けています。」&lt;6年歴史編P153&gt;</p>	<p>「世界のの中の国土」                      ・【写真】尖閣諸島&lt;5年上P14&gt;                      ・【図】尖閣諸島の位置&lt;5年上P14&gt;                      ・【本文】「また、東シナ海にある尖閣諸島は、日本が有効に支配する固有の領土です。中国がその領有を主張していますが、領土問題は存在しません。」&lt;5年上P14&gt;</p>	<p>「世界のの中の国土」                      ・【写真】与那国島「台湾に最も近い位置にある沖縄県の島です。」、沖ノ鳥島(東京都)「島の大部分が海にすんでしまつときもあります。そのため、まわりをコンクリートブロックで囲み、しずまないようにしています。」、南鳥島「さんごじょうの島で、地震や気象の観測をしています。」&lt;5年上P12~13&gt;                      ・【コラム】日本の排他的経済水域(200海里水域)「自国の沿岸から200海里(約370km)までは、天然資源開発などの権利が認められています。日本の法律にもとづいて、この境界線を引いてあります。関係国と協議中のところもあります。排他的経済水域には領海もふくまれます。」&lt;5年上P13&gt;                      ・【本文】「日本の東西南北のはしは、南鳥島、与那国島、沖ノ鳥島、択捉島です。」&lt;5年上P13&gt;                      ・【コラム】領土&lt;5年上P14&gt;                      ・【図】拡大する西之島「2017年6月30日に発行された海図と地形図によって、日本の領海が約70km<sup>2</sup>拡大しました。」&lt;5年上P15&gt;                      「水産業のさかんな地域」                      ・【図】200海里水域と世界の漁場別に見た日本の漁業生産量&lt;5年上P106&gt;                      ・【コラム】200海里水域&lt;5年上P106&gt;                      ・【本文】「そのころ、200海里水域とあって、各国の魚をとる範囲が決められたそう、漁獲量が減ったことと関係があるようです。」、「200海里水域を決めることで、各国が自分の国の資源を守ろうとしたんだね。」&lt;5年上P106&gt;</p>



<p>発行者名</p>	<p>北方領土に関する記述の概要</p> <p>「平和で豊かな暮らしを目ざして」          ・【図】北方領土&lt;6年P227&gt;          ・【コラム】未解決の北方領土「戦後、ソビエト連邦(ソ連)との国交は回復しましたが、北方領土の問題は解決されませんでした。日本固有の領土である歯舞諸島、色丹島、国後島、択捉島は、ソ連の時代から占領されたままです。1991年にソ連が解体してからは、ロシア連邦との間で返還を求めると交渉を続けています。」&lt;6年P227&gt;</p>	<p>竹島に関する記述の概要</p> <p>「平和で豊かな暮らしを目ざして」          ・【写真】竹島「竹島は日本固有の領土でありながら、1954年から韓国が不法な占拠を続けています。日本はこれに講義するとともに、国際的な場で話し合いによって平和的に解決しようと、韓国に対してはたらきかけを続けてきています。」&lt;6年P226&gt;          「日本とつながりの深い国々」          ・【コラム】「大韓民国」地図に竹島の記載あり&lt;6年P254&gt;</p>	<p>尖閣諸島に関する記述の概要</p> <p>「平和で豊かな暮らしを目ざして」          ・【コラム】中国と日本「1972年、中国との国交が正常化し、1978年には日中平和友好条約が結ばれました。」、「一方で、日本と中国との間には、領土をめぐる課題があります。沖縄県には、尖閣諸島は日本の固有領土であり、領土問題はないというのが日本の立場ですが、中国も自国の領土であると主張しています。尖閣諸島の周りの海では、中国の船が侵入し、日本の同意を得ることなく海洋調査を行ったり、違法に漁業を行ったりするなどの行為をくり返しています。日本は、そうした行為をしないように中国に求めています。」&lt;6年P227&gt;</p> <p>「日本とつながりの深い国々」          ・【コラム】尖閣諸島をめぐる課題「沖縄県の尖閣諸島は、日本の領土でありながら、中国が自国の領土であると主張しています。その周りの海では、中国の船が侵入し、日本の同意を得ることなく海洋調査を行ったり、違法に漁業を行ったりするなどの行為をくり返しています。日本は、警戒や取りしまりを強め、そうした行為をしないように中国に求めています。」&lt;6年P242&gt;</p>	<p>その他(領土の範囲等)</p> <p>「水産業の豊かな地域」          ・【コラム】漁場を制限する取り組み「1977(昭和52)年ごろから、世界各国は自国の水産資源を守るために、海岸から200海里(約370km)のぼん囲の海で、他国の漁船がとる魚の種類や量を制限するようになりました。」&lt;5年P94&gt;          ・【図】200海里水域(排他的経済水域)と、日本の漁業の生産量&lt;5年P94&gt;          ・【本文】「日本の排他的経済水域は、領土に比べてずっと広がったよね。」&lt;5年P94&gt;</p>
<p>教出</p>				

発行者名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他(領土の範囲等)
日文	<p>「世界から見た日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】日本の北の北は、択捉島 北緯45度33分 東経148度45分&lt;5年P15&gt;</li> <li>・【図】北方領土、竹島、尖閣諸島の位置&lt;5年P16&gt;</li> </ul> <p>・【本文】「75年ほど前、第二次世界大戦後ののち、ソビエト連邦は、択捉島や、その近くにある国後島、色丹島、歯舞群島を占領しました。これらの島々は、北方領土とよばれ、現在、ソビエト連邦を引きついだロシアが不法に占拠しています。北方領土は日本固有の領土であるため、日本政府は、これらの島々を返すように、ロシアにはたたらきかけ、話し合いを続けています。日本人々は、これらの島々が1日も早く返ってくることを願っています。」&lt;5年P16&gt;</p> <p>「寒い土地のくらしー北海道旭川市ー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「北海道は、日本の北に位置しています。本州とは津軽海峡でへだてられており、東には、択捉島をはじめとする北方領土があります。」&lt;5年P38&gt;</li> </ul>	<p>「世界から見た日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】竹島&lt;5年P16&gt;</li> <li>・【図】北方領土、竹島、尖閣諸島の位置&lt;5年P16&gt;</li> </ul> <p>・【本文】「日本海にある竹島は、日本固有の領土ですが、現在、韓国が不法に占領しているため、韓国にくり返し抗議しています。」&lt;5年P16&gt;</p>	<p>「世界から見た日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】尖閣諸島&lt;5年P16&gt;</li> <li>・【図】北方領土、竹島、尖閣諸島の位置&lt;5年P16&gt;</li> </ul> <p>・【本文】「また、東シナ海にある尖閣諸島は、日本固有の領土で、その領有については、問題がないにも関わらず、中国が自国の領土であると主張しています。」&lt;5年P16&gt;</p> <p>「さまざまな土地のくらし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【図】沖縄県の位置「尖閣諸島」&lt;5年P30&gt;</li> </ul>	<p>「世界から見た日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】日本の西の北は、与那国島 北緯24度26分 東経122度56分、日本の南の北は、沖ノ島 北緯20度25分 東経136度4分、日本の東の北は、南鳥島 北緯24度16分 東経153度59分&lt;5年P14～15&gt;</li> <li>・【本文】「これらの島々は、北東から南西の方向に弓のような形にならんでいて、北の北はの択捉島から西の北はの与那国島までのきよりは約3300kmにもなります。」&lt;5年P14&gt;</li> <li>・【コラム】領土「なお、領海の外側には、魚などの水産資源や天然ガス・石油などの鉱山資源を自分の国だけで利用できる、排他的経済水域という海のみんががあります。」&lt;5年P15&gt;</li> <li>・【図】領土・領海・領空・排他的経済水域のほんい「領海の北はは国によってことなります。」&lt;5年P15&gt;</li> <li>・【本文】「南北は、およそ北緯20度から北緯46度まで、東西はおよそ東経122度から154度までのほんいに広がっています。」&lt;5年P15&gt;</li> <li>・【本文】「日本は、北の択捉島、東の南鳥島、南の沖ノ島、西の与那国島をそれぞれのはしとす、海に囲まれた島国だね。」、「北方領土や竹島、尖閣諸島も、日本固有の領土なんだね。」&lt;5年P17&gt;</li> </ul> <p>「さまざまな土地のくらし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【図】沖縄県の位置「与那国島」&lt;5年P30&gt;</li> <li>・【本文】「本州からは遠くはなれていて、日本の西の北には与那国島があるよ。」&lt;5年P30&gt;</li> <li>・【図】おもな国の領土と排他的経済水域の面積、日本の国土のほんいと排他的経済水域&lt;5年P64&gt;</li> </ul>

<p>発行者名</p>	<p>北方領土に関する記述の概要</p> <p>「国方の充実をめざす日本と国際社会」          ・【コラム】日本の領土が決まる「1854年に、ロシアと結んだ条約では、日本とロシアの国境は、択捉島とウルップ島のあいだと決められていました。」&lt;6年P182&gt;</p> <p>「新しい日本へのあゆみ」          ・【コラム】北方領土「北海道の根室沖にある歯舞諸島・色丹島・国後島・択捉島は、歴史的にも日本の固有の領土で、北方領土と呼びます。第二次世界大戦後、ソ連はこれら島々を占領し、現在もソ連を引きついだロシア連邦による不法占拠が続いています。日本政府は北方領土を返すよう、ロシアに求め続けています。」&lt;6年P225&gt;</p> <p>・【図】北方領土&lt;6年P225&gt;          ・【写真】北方領土&lt;6年P225&gt;</p>	<p>竹島に関する記述の概要</p> <p>「新しい日本へのあゆみ」          ・【コラム】竹島「島根県沖にある竹島は、1905年(明治38年)に島根県に編入された日本の固有の領土です。しかし、韓国もその領有を主張しており、現在、韓国は、不法に占拠しています。日本政府は、韓国に抗議を続けています。」&lt;6年P225&gt;</p> <p>・【図】竹島&lt;6年P225&gt;          ・【写真】竹島&lt;6年P225&gt;</p> <p>「つながりの深い国々のくらし」          ・【図】竹島の記載あり&lt;6年P246&gt;</p>	<p>尖閣諸島に関する記述の概要</p> <p>「新しい日本へのあゆみ」          ・【写真】尖閣諸島周辺で不審船を取りしめる海上保安庁の巡視艇&lt;P224&gt;</p> <p>・【コラム】尖閣諸島「沖縄県の西方にある尖閣諸島は、1895(明治28)年に沖縄県に編入された日本の領土です。第二次世界大戦後、アメリカの統治下におかれましたが、沖縄県が日本に返還されるとともに、日本の領土にもどりました。日本固有の領土で、その領有をめぐる問題がないにもかかわらず、中国も自国の領土であると主張しています。」&lt;6年P225&gt;</p> <p>・【図】尖閣諸島&lt;6年P225&gt;          ・【写真】尖閣諸島&lt;6年P225&gt;</p>	<p>その他(領土の範囲等)</p> <p>「新しい日本へのあゆみ」          ・【図】日本の領土・領海・領空と排他的経済水域&lt;6年P224&gt;</p> <p>・【コラム】排他的経済水域&lt;6年P224&gt;          ・【本文】「国の領土・領海・領空を定めるということは、国民の生活にもいさよようするたいせいなことです。日本の領土である北方領土や竹島の問題解決に向け、日本政府は慎重に対応しています。」、「国には、領土・領海・領空というものが定められていて、各国はおたがいがいいにそれを守らなければならないね。」&lt;6年P224&gt;</p>
<p>日文</p>				

学年	国旗・国歌に関する記述	外国の国旗に関する記述
第3学年	<p>「店ではたらく人」</p> <p>・【コラム】国旗は、国を表すめじるしです。その国の人々のねがいや気持ちがかめられています。＜P81＞</p>	<p>「店ではたらく人」</p> <p>・【図】中国、アメリカ、メキシコ、ニュージーランド＜P81＞</p>
第4学年	<p>「国際交流に取り組むまち・仙台市」</p> <p>・【地図】「国旗は、国を表す目印で、その国の人々の願いや気持ちがかめられています。国と国が交流するときは、おたがいの国旗をそんちようすることが大切です。」＜P152＞</p>	<p>「国際交流に取り組むまち・仙台市」</p> <p>・【図】フランス、フィンランド、ペラルーシ、韓国、アメリカ、中国、メキシコ＜P152＞</p>
第5学年	<p>「世界の中の国土」</p> <p>・【コラム】国旗「日本の国旗は、白地に太陽が赤くかがやいている様子を表しています。どの国の国旗にも大切な意味や由来があり、自国はもちろん、他の国の国旗も大切にすることが必要です。」＜上P10＞</p>	<p>「世界の中の国土」</p> <p>・【図】イギリス、エジプト、南アフリカ共和国、フランス、ドイツ、ロシア連邦、中華人民共和国、大韓民国、アメリカ合衆国、カナダ、ブラジル、アルゼンチン、ニュージーランド、オーストラリア、インド、サウジアラビア、トルコ＜上P10～11＞</p> <p>・【図】モンゴル、朝鮮民主主義人民共和国、フィリピン＜上P12＞</p>
第6学年	<p>「世界の未来と日本の役割」</p> <p>・【本文】「世界の国々は、それぞれの国旗と国歌をもっており、国民のまとまりの「しるし」として大切にしています。また、国どうしの交際では、おたがいの国の国旗と国歌に敬意を表し、友好を深めるために役立てています。日本では、明治時代から使われ、慣れ親しまれてきた日の丸(日章旗)と君が代を、それぞれ国旗、国歌とすることが法律で定められています。」＜政治・国際編P111＞</p> <p>・【写真】太平洋を横断する海臨丸「外国の港に入る船は、自分の国の国旗をかかげます。幕末に、太平洋を横断した江戸幕府の軍艦威臨丸も日の丸をかかげていました。」＜政治・国際編P111＞</p> <p>・【写真】君が代の楽譜(今の形になる前の楽譜)＜政治・国際編P111＞</p>	<p>「日本とつながりの深い国々」</p> <p>・【表】アメリカ合衆国「朱と白の横線は独立したときの13州、星は現在の州の数(50州)を表しています。」、中華人民共和国「大きな星は中国共産党、小さな星は労働者、農民などの国民を表しています。」、大韓民国「円の赤は陽、青は陰、白地は平和を愛する心、四すみの印は天・地・日・水を表しています。」、サウジアラビア「イスラム教の聖典であるコーランの一節を示したアラビア語の文字と正義を意味する剣をかかげています。」＜政治・国際編P68＞</p> <p>「世界の未来と日本の役割」</p> <p>・【写真】オリンピックでかかげられる各国の国旗＜政治・国際編P111＞</p> <p>・【本文】「世界の国々の中には、言葉や習慣、宗教などのちがう民族がいろいろになってつづいている国もあり、国旗や国歌は、民族どうしの結びつきの「しるし」となっています。また、多くの民族で成り立っている国から、それぞれの民族が新しい国として独立したときには、自分たちの国旗や国歌をつくります。ほかの国に支配されてきた歴史をもつ地域の人々は、独立を勝ち取ったほこりと自信を、国旗や国歌に表し、自分たちの国を世界に向けて発信しています。」＜政治・国際編P111＞</p> <p>・【コラム】国旗と国歌＜政治・国際編P111＞</p>

学年	国旗・国歌に関する記述	外国の国旗に関する記述
第3学年	<p>「店ではたらく人と仕事」                      ・【イラスト】国旗には、その国をきずいてきた人々の思いやほこりなどがこめられています。』&lt;P57&gt;                      ・【イラスト】「どの国の国旗も、大切にされているよ。」&lt;P205&gt;</p>	<p>外国の国旗に関する記述                      「店ではたらく人と仕事」                      ・【図】イタリア、中国、モータニア、オーストラリア、ブラジル、アメリカ&lt;P57&gt;                      「工場ではたらく人と仕事」                      ・【図】カナダ、アメリカ、ニュージーランド&lt;P75&gt;                      「農家の仕事」                      ・【図】アメリカ、オーストラリア、大韓民国&lt;P87&gt;                      「ちらしをつくって、仕事のくふうをつたえよう」(ひろげる)                      ・【イラスト】イタリア、フランス&lt;P91&gt;</p>
第4学年	<p>「国際交流がさかんまなまちづくり」                      ・【コラム】「国旗はその国を表す印として使われる旗のことで、その国をきずいてきた人々の思いやほこりなどがこめられています。どの国の国旗も、大切に扱わなければなりません。」&lt;P205&gt;</p>	<p>「国際交流がさかんまなまちづくり」                      ・【図】中華人民共和国、大韓民国、アメリカ合衆国、フランス、ミャンマー、マレーシア、ニュージーランド&lt;P205&gt;</p>
第5学年	<p>「日本の国土と世界の国々」                      ・【本文】「国土の形や、近くにある外国の名前や国旗についても、わかったことを整理しました。」&lt;P12&gt;                      ・【コラム】国旗は、それぞれの国を表すしるしです。どの国旗にも、その国の歴史や人々の思いがこめられています。日本の国旗(日章旗)は、白地に赤い丸が入っています。これは、太陽がかがやく様子を表しているといわれています。日本の国旗も他の国の国旗も、大切に扱わなければなりません。」&lt;P13&gt;</p>	<p>「日本の国土と世界の国々」                      ・【図】イギリス、フランス、ロシア連邦、ドイツ、中華人民共和国、エジプト、サウジアラビア、インド、タイ、ガーナ、南アフリカ共和国、オーストラリア、カナダ、アメリカ合衆国、メキシコ、ペルー、ブラジル、ニュージーランド、アルゼンチン&lt;P8~9&gt;                      ・【図】ロシア連邦、モンゴル国、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)、中華人民共和国(中国)、大韓民国(韓国)、フィリピン共和国&lt;P12~13&gt;</p>
第6学年	<p>「世界の中の日本」                      ・【写真】女子スピードスケート競技で金メダルを獲得した日本代表選手、咸臨丸「江戸幕府の軍艦咸臨丸は、1860年、アメリカと結んだ条約を承認するための使節を乗せた船とともに、太平洋を横断しました。」、国歌を歌う選手&lt;P232~233&gt;                      ・【コラム】国旗と国歌「世界の中の国にも、国旗や国歌があります。国旗と国歌には、その国を築いてきた人々の理想や文化、ほこりなどがこめられており、その国を象徴するものとして、大切にされています。日本の日章旗(日の丸)は、江戸時代の末、外国の船との区別をはっきりさせるため、幕府が日本船の船印として決めたものです。明治政府も、日本の商船旗と定め、やがて国旗としてあつかわれようになりました。君が代は、平安時代につくられた和歌をもとにして明治時代に今日のよいうな旋律がつけられました。君が代には、日本の国がいつまでも繁栄し続け、平和であることを願う気持ちがこめられています。日の丸と君が代は、1999(平成11)年に、それぞれの国旗、国歌として法律で定められました。それぞれ国の歴史や人々の思いがこめられた国旗や国歌に対しては、たがいに尊重し合い、敬意をはらってあつかうことが大切です。」&lt;P233&gt;</p>	<p>「世界の中の日本」                      ・【写真】バリンピックの閉会式で入場する選手たち、オリンピッククデかかげられる国旗&lt;P233&gt;                      「日本とつながりの深い国々」                      ・【コラム】アメリカ合衆国&lt;P236&gt;                      ・【コラム】中華人民共和国&lt;P240&gt;                      ・【コラム】ブラジル連邦共和国&lt;P244&gt;                      ・【コラム】サウジアラビア王国&lt;P248&gt;                      ・【コラム】大韓民国&lt;P254&gt;</p>

学年	国旗・国歌に関する記述	外国の国旗に関する記述
第3学年	<p>「店ではたらく人ひとの仕事」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】国旗「その国をあらわす旗のこと。それぞれの国には国旗があり、たいせつにされています。日本の国旗は、日章旗(日の丸)とよばれています。」&lt;P83&gt;</li> </ul>	<p>外国の国旗に関する記述</p> <p>「店ではたらく人ひとの仕事」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【図】タイ、アメリカ合衆国(アメリカ)、フィリピン、エクアドル、ブラジル、南アフリカ共和国、ニュージーランド、チリ&lt;P83&gt;</li> </ul>
第4学年	<p>「世界とつながる地いき」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】日本のパスポート&lt;P187&gt;</li> <li>・【本文】岡山県は、インドや中国などと交流しているね。どの国にも国旗があるよ。」&lt;P187&gt;</li> <li>・【コラム】「国旗は、その国をあらわすしるしとして使われる旗です。世界のどの国にも国旗があり、人々は、自分の国の国旗をほこりにして、おたがいにたいせつにしています。日本の国旗は日章旗(日の丸)です。」&lt;P187&gt;</li> </ul>	<p>「世界とつながる地いき」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【図】ブルガリア共和国、中国、大韓民国(韓国)、アメリカ、インド、オーストラリア、コスタリカ共和国&lt;P187&gt;</li> </ul>
第5学年	<p>「世界から見た日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「そこで、地球儀や地図帳で国の位置や国名、国旗を調べて、白地図にかきました。」&lt;P10&gt;</li> <li>・【コラム】国旗「国旗は、その国の象徴として使われています。また、その国のなりたちや理想がこめられています。自国の国旗だけでなく、外国の国旗についても尊重することがたいせつです。」&lt;P11&gt;</li> <li>・【本文】「それぞれの国には国旗があつたよ。」&lt;P17&gt;</li> </ul>	<p>「世界から見た日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【図】フランス、イタリア、ドイツ、ロシア連邦(ロシア)、カナダ、アメリカ合衆国(アメリカ)、ブラジル、チリ、大韓民国(韓国)、中華人民共和国(中国)、フィリピン共和国、ベトナム社会主義共和国、オーストラリア、インド、南アフリカ共和国、サウジアラビア、エジプト&lt;P10～11&gt;</li> </ul>
第6学年	<p>「つながりの深い国々のくらし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「オリンピックの表し方では、競技に優勝した選手の国の国旗をあげ、国歌を演奏して、選手の健とをたたえます。どの国でも、国旗や国歌は、その国の文化や歴史をあらわし、独立国のしるしとしてたいせつにあつかわれます。独立国がたいがい尊重し合うことと同じように、その象徴である国旗・国歌を尊重し合うことがたいせつです。」&lt;P250&gt;</li> <li>・【コラム】日章旗(日の丸)と君が代「日の丸は江戸幕府の船印として使用されるようになり、江戸時代の終わりごろには、外国からも日本の国旗として認められていたものと考えられます。また、君が代は、平安時代によまれた和歌をもとにして、明治時代につくられ、日本の国歌として、国の儀式などで歌われるようになりました。その後、日の丸と君が代は、長年にわたって、日本の国旗・国歌として慣れ親しまれてきました。」&lt;P251&gt;</li> <li>・【写真】オリンピックの表し方(2016年、ブラジル)&lt;P251&gt;</li> </ul> <p>「オリンピック・パラリンピックと世界の国々」(わたしたちたちの学びを生かそう)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】リオデジャネイロオリンピック「女子レスリングで優勝し、日の丸をかかげる伊調馨選手」、1964年の東京オリンピック開会式での参加国の国旗&lt;P266&gt;</li> <li>・【本文】「一番最初に調べたことは世界の国旗についてです。国旗には、その国の歴史や国の理想などが表されていることも多く、それぞれ国にとってなくてはならないものです。一人一人の選手も国の代表として参加し、国旗をたいせつにする気持ち強いこともわかりました。オリンピック・パラリンピックでも、参加する国に敬意を表すために国旗を大切にしています。」</li> <li>・【世界】世界の国々の国旗には、さまざまな意味がこめられていることを知ったよ。国旗や国歌をたいせつにすることは、その国を理解する第一歩だと思つたよ。」&lt;P266～267&gt;</li> <li>・【コラム】「国旗を知ることにはその国を理解する第一歩」 世界で世界の国旗のスペシャリスト 吹浦忠正さんの話「国旗にはその国を象徴する歴史、文化、自然、理想などがこめられています。国々と友好を深めるためにはその国のことをよく知らなくてはなりません。国旗を知ることにはその国を理解する第一歩なのです。」&lt;P266&gt;</li> </ul>	<p>「つながりの深い国々のくらし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】アメリカ合衆国の基本データ&lt;P234&gt;</li> <li>・【コラム】キヤサリン先生の話「そこで、民族などのちがう人々の心をつなぐようと、国旗に向かって誓うのです。」&lt;P236&gt;</li> <li>・【写真】「忠誠の誓い」&lt;P236&gt;</li> <li>・【コラム】中華人民共和国の基本データ&lt;P238&gt;</li> <li>・【コラム】会社の中国の人の話「月曜日は国旗掲揚があるのだから、必ず制服を着ます。首に巻いた赤いスカーフは、国旗をあらわしています。」&lt;P240&gt;</li> <li>・【写真】授業のようす、昼食のようす&lt;P240&gt;</li> <li>・【コラム】ブラジル連邦共和国の基本データ&lt;P242&gt;</li> <li>・【コラム】大韓民国の基本データ&lt;P246&gt;</li> </ul>

発行者名	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(学年以上/下 掲載ページ)
東書	<p>「縄文のむらから古墳のくにへ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】神話に書かれた国の成り立ち「8世紀ごろ、「古事記」や「日本書紀」といった書物が天皇の命令でつくられました。これらには、大昔のこととして、天からこの国土に下った神々の子孫が、大和地方に入って国をつくり、やがて日本の各地を統一していった話などがのっています。ヤマトタケルの話もその一つで、複数の人物の事業を一人の人物の話としてあらわしたのではないかと考えられています。また、各地の人々の生活の様子や地域の自然などを記した「風土記」も8世紀ごろにつくられました。現在は「出雲国(現在の島根県)風土記」の内容だけが、完全な形で伝えられています。」&lt;6年歴史編P21&gt;</li> <li>・【コラム】神話の中のヤマトタケル「ヤマトタケルノミコトは、武勇にすぐれた皇子でした。ヤマトタケルは、天皇の命令を受けて、九州へ行って、クマンを平らげ、休む間もなく、東日本のエミシをたおしました。ヤマトタケルは、広い野原で焼きうちにあたり、あれる海とたたかたりして、苦勞しながら征服を進めました。ところが、都へ帰る途中、病気でなくなりました。すると、ヤマトタケルのたましいは、大きな白鳥に生まれ変わって、都の方へ飛んでいきまし</li> </ul>
教出	<p>「国づくりへの歩み」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】「古事記」と「日本書紀」 「天皇中心の国のしくみが整った8世紀の初め、朝廷は、日本の成り立ちを国の内外に示すため、「古事記」や「日本書紀」という歴史の本を完成させました。この中には、ヤマトタケルの話のように、国が統一されていく物語も収められています。これは神話といわれ、すべてが真実ではありませんが、国の成り立ちや、この時代の人々の考えを知る手がかりになります。」&lt;6年P87&gt;</li> <li>・【コラム】ヤマトタケルの話「ヤマトタケルは、天皇である父の命令で九州におもむき、クマンをうちとりました。次に関東のエミシを従えるように命じられました。ヤマトタケルは、その途中で、広い野原で焼きうちにあたり、荒れる海とたたかたりするような困難にあいながらも、関東を征服しました。しかし、その帰り道に、病気でなくなりました。ヤマトタケルは、大きな白い鳥になって、大和のほうへ飛んでいったということです。」&lt;6年P87&gt;</li> </ul>
日文	<p>「大昔のくらしとくにの統一」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「ゆいさんたちは、古墳時代について調べているうちに、そのころのようすが、神話や昔話として、今も伝えられていることを知りました。」「わたしたちが、4世紀から5世紀ごろのようすを知ろうとすると、8世紀初めにつくられた『日本書紀』や『古事記』という書物のなかの、神話も手がかりになります。」&lt;6年P68&gt;</li> <li>・【コラム】神話などに書かれた国の成り立ちと人々の生活のようす「8世紀のはじめに天皇の命令によりつくられた『古事記』や『日本書紀』という書物には、神話が書かれています。また、地方の王や豪族に従いながら、生活をしていた人々のようすや、地方の自然などについて書かれた『風土記』と呼ばれる書物も伝わっています。」「ヤマトタケルノミコト「昔、ヤマトタケルノミコトという武勇にすぐれた皇子がいました。皇子は、朝廷に従わない豪族を討つという天皇の命令を受けました。皇子は、苦勞しながら各地の豪族をたおしていきまし。しかし、都へ帰るとちゅうで病気でなくなり、都がある大和の美しい景色を思い浮かべながら、短い一生を終えたということです。」「風土記」 「各地の人々の生活のようすや、地域の自然などを記した『風土記』は、8世紀ごろにつくられました。地名や山、川の名前の由来についてや、その土地にまつわる話などが書かれています。」「出雲国風土記」(出雲は現在の島根県)の内容だけが、完全な形で伝えられています。」&lt;6年P68&gt;</li> </ul>

発行者名	「教材名」	【掲載方法】	記述の概要(学年 掲載ページ)
東書	「新しい日本、平和な日本へ」	【コラム】  【写真】	まわりの国と日本「朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)とは、2002年に初の首脳会談が行われました。しかし、北朝鮮が日本人を無理やり連れ去った拉致問題や核兵器の開発などの多くの問題が残されています。」<6年歴史編P153>  北朝鮮から帰国した拉致被害者<6年歴史編P153>
教出	「平和で豊かな暮らしを 目ざして」	【コラム】  【写真】  【表】	韓国・北朝鮮と日本「2002(平成14)年に実現した日朝首脳会談で、北朝鮮は、過去に日本人を無理やり連れ去ったという事実を認めました。こうした拉致の問題のほかに、北朝鮮との間には、核兵器とミサイルの開発の問題があります。」<6年P226>  日本と北朝鮮の代表との話し合い「この会談ののち、2002年には、拉致された人々のうち、5名が帰国し、2004年には、その家族が日本への帰国や訪問を果たしました。」<6年P226>  今の日本の社会の課題(例)「日本人の拉致の問題」<6年P231>
日文	「新しい日本へのあゆみ」	【写真】	日本と北朝鮮の代表者による会議(2002年)「会議のなかで、北朝鮮側が、日本人を北朝鮮に無理やり連れ去っていたことを認め、日本国民に大きなしよげきをあたえました。現在、こうした問題の解決に向けた努力が続けられています。」<6年P223>

学年	一次エネルギーや再生可能エネルギーに関する記述	そのうち、原子力発電に関する記述
第3学年	記述なし	記述なし
第4学年	<p>「水はどこから」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】日本の発電量(自家用をふくむ) &lt; P52 &gt;</li> <li>・【コラム】火力発電「日本の発電の中心になっている。地球温暖化の原因の一つとされている二酸化炭素を多く出す。燃料にかぎりがあ、ほとんどを輸入にたよっている。」 &lt; P52 &gt;</li> <li>・【コラム】水力発電「水が流れる力を使って発電する。燃料を使わない。発電のときに二酸化炭素を出さないクリーンな発電。ダムをつくるときに、かんきようにえいきよをあたえる。」 &lt; P53 &gt;</li> <li>・【本文】日本はしげんのとほしい国なので、燃料を必要とせずに、何度もくり返し使えるエネルギーで発電することが、これからは大切だね。 &lt; P54 &gt;</li> <li>・【グラフ】再生可能エネルギーの電力量の変化 &lt; P54 &gt;</li> <li>・【写真】地熱発電、太陽光発電、風力発電、バイオマス発電 &lt; P54 &gt;</li> <li>・【コラム】再生可能エネルギー &lt; P54 &gt;</li> </ul>	<p>「水はどこから」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】原子力発電「ウラン燃料を利用して、発生させた熱で発電する。燃料を輸入にたよっている。発電のときに二酸化炭素を出さない。燃料や廃棄物のあつかいがむずかしく、事故が起ると長く大ききひがひが出る。」 &lt; P53 &gt;</li> </ul>
第5学年	<p>「くらしを支える石油工業」(ひろげる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】未来に向けた取り組み「また、太陽光や風力など、石油以外の自然エネルギーを活用した発電にも取り組んでいます。」 &lt; 下P31 &gt;</li> <li>「工業生産を支える輸送と貿易」</li> <li>・【写真】太陽光発電、地熱発電、風力発電、バイオマス発電 &lt; 下P44 &gt;</li> <li>・【図】主な風力発電所などの分布 &lt; 下P44 &gt;</li> <li>・【本文】「太陽光発電や風力発電など、再生可能エネルギーの開発も広がっています。」「工業製品の原料や天然資源の多くを輸入にたよっている日本では、世界との結びつきを大切にしながら、再生可能エネルギーの開発などの新たな取り組みを進めることが求められています。」 &lt; 下P44 &gt;</li> <li>「わたしたちの生活と森林」</li> <li>・【図】木質バイオエネルギーへの活用「製材工場で出た木のくずは、木質バイオエネルギーをつくる会社にはん売し、くたいで数センチのチップにされた後、発電の燃料として活用されます。」 &lt; 下P119 &gt;</li> <li>・【本文】「木材をつくるときに出るくずは、すてずに発電の燃料としてはん売するそうです。」 &lt; 下P119 &gt;</li> </ul>	記述なし
第6学年	<p>「中学校に向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】大分県にある地熱発電所 &lt; 政治・国際編P115 &gt;</li> </ul>	<p>「震災復興の願いを実現する政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「2011年3月11日に起きた東日本大震災で、宮岡町の近くにある原子力発電所が爆発事故を起こしました。大量の放射性物質がもれ出したため、政府は周辺の市町村に避難指示を出しました。」「政府は、放射性物質を取り除く除染作業を進めました。そして、道路や水道などの生活を支える設備の復旧も進めました。」 &lt; 政治・国際編P57 &gt;</li> <li>・【写真】福島第一原子力発電所(福島県大熊町) &lt; 政治・国際編P57 &gt;</li> <li>・【図】避難指示が出された区域(2011年4月22日時点) &lt; 政治・国際編P57 &gt;</li> </ul>

学年	一次エネルギーや再生可能エネルギーに関する記述	そのうち、原子力発電に関する記述
第3学年	<p>記述なし</p> <p>「くらしと電気」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】火力発電の持ちよう「天然ガスや石油、石炭などを燃やした熱で発電する。発電量を調節しやすい。水力や原子力とくらべ、しせつを建設しやすい。燃料のほとんどを外国から買っている。燃料にかざりがあるといわれている。地球温暖化の原因の一つとされる二酸化炭素が出る。」&lt;P76&gt;</li> <li>・【グラフ】国内でつくり出すことのできる電力と、実際に使われた電力(電気事業連合会) &lt;P76&gt;</li> <li>・【コラム】水力発電の持ちよう「水が流れる力で発電する。発電のときに燃料を使わない。発電のときに二酸化炭素やはいき物を出さない。雨がふらないと水が不足して発電することができなくなる場合がある。ダムをつくるときに、環境に大きなえいきょうをあたえる。」&lt;P77&gt;</li> <li>・【写真】風力発電所 &lt;P78&gt;</li> <li>・【本文】「風力や地熱、太陽光など、自然の力を利用してつくった電気を、くらしに使うとうとする新しい取り組みが、進められています。」&lt;P78&gt;</li> <li>・【コラム】風力・地熱・太陽光発電の持ちよう「燃料をほとんど使わない。発電のときに、二酸化炭素やはいき物をほとんど出さない。火力や原子力とくらべ、住宅の屋根などの小さなしせつでも電気をつくることができる。」&lt;P79&gt;</li> <li>・【本文】「地熱発電は、地中深くから得られた蒸気を利用して発電するしくみだそうだよ。」&lt;P79&gt;</li> <li>・【グラフ】国内の1年間の総発電量 &lt;P79&gt;</li> </ul>	<p>記述なし</p> <p>「くらしと電気」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】原子力発電所 &lt;P75&gt;</li> <li>・【コラム】原子力発電の持ちよう「ウラン燃料を利用して発生させた熱で発電する。少ない燃料で多くの電気をつくることのできる。発電のときに二酸化炭素を出さない。燃料のほとんどを外国から買っている。燃料にかざりがあるといわれている。燃料やはいき物のあつかいがむづかしく、安全のための十分なそなえが必要になる。事故などで有害な物質が放出されると、広いはんにい長くえいきょうをおよぼすことがある。」&lt;P77&gt;</li> <li>・【コラム】原子力発電所の事故「2011(平成23)年3月に発生した東日本大震災で、原子力発電所の一つが事故を起こしました。この事故は、広いはんに人々のくらしに大きなえいきょうをおよぼしています。また、この事故をきっかけに、国内の原子力発電所のすべてが検査のため運転を休止しました。その後、一部の原子力発電所では運転が再開されています。(2018年3月現在)」&lt;P79&gt;</li> </ul>
第5学年	<p>「工業やくらしを支える資源・エネルギー」(ひろげる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】原油や天然ガスなどは、電気や火を生み出すエネルギーにもなるから、輸入できないと大変だよ。 &lt;P168&gt;</li> <li>・【グラフ】日本のエネルギー消費量の割合の変化 &lt;P168&gt;</li> <li>・【本文】「海ぞいなどの強風を利用して、大きな風車を回す。」「火山が多いことを生かして、地下の熱を利用する。」「冬に積もった大量の雪を夏の冷房などに生かす。」「太陽の光から熱や電気を生み出す。」「使い終わった天ぷら油やさとうきびのしぼりかすから燃料をつくったり、林業の中で出た木のくずを燃やして発電したりする取り組みが増えています。このように、植物の一部や動物のふん尿などを使って生み出すバイオマスエネルギーは、環境にやさしいエネルギーとして注目されています。」&lt;P169&gt;</li> <li>・【写真】海の上にかが風力発電設備 &lt;P169&gt;</li> </ul> <p>「森林とともに生きる」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】木質バイオマス発電所「建築用として利用できないため、森林の中に残されていた材木や枝を、発電のための燃料として有効に活用しています。」&lt;P225&gt;</li> </ul>	<p>「日本の工業生産の今と未来」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「原油や石炭などの化石燃料を大量に燃やすと、多くのガスが排出され、地球温暖化や空気のよこれなど、環境に大きなえいきょうをおよぼします。そこで、ガスを発生させず、より効率のよいエネルギーを使うことが考えられ、原子力の利用が進められてきました。しかし、原子力の利用では、使い終わった燃料をどのように処理するのかがという問題や、事故が発生したときのえいきょうなども考えなければなりません。2011(平成23)年に発生した東日本大震災では、原子力発電所の一つが事故を起こし、今も広い地域で人々のくらしに大きなえいきょうをおよぼしています。日本では、原子力のほかに、より安全性が高く、使いすぎる心配のないエネルギーの開発が進められています。」&lt;P168&gt;</li> </ul>
第6学年	<p>「地球規模の課題の解決と国際協力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】スポーツ施設の屋根に設けられた太陽光の発電パネル「太陽光、風力、地熱などのエネルギーは、自然界で再生が可能で、温暖化や大気汚染にもつながらないことから、日本でも研究・開発が進められています。」&lt;P265&gt;</li> </ul>	<p>「わたしたちの暮らしを支える政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】原子力発電所の事故からの復興に向けて &lt;P43&gt;</li> </ul> <p>「災害からわたしたちをまもる政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「この地震と津波の影響で、福島第一原子力発電所で事故が起こり、有害な放射性物質が広い範囲に放出されて、多くの人々が避難をしなければならなくなりました。」&lt;P48&gt;</li> </ul> <p>「地球規模の課題の解決と国際協力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】2011(平成23)年に起こった原子力発電所の事故 &lt;P265&gt;</li> </ul>

学年	一次エネルギーや再生可能エネルギーに関する記述	そのうち、原子力発電に関する記述
<p>第3学年</p> <p>記述なし</p> <p>「わたしたちのくらしと電気」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【イラスト】火力発電所「石油・石炭・天然ガスを利用する。」、水力発電所「水の落ちる力を利用して発電機を動かす。」&lt;P63&gt;</li> <li>・【コラム】発電方法別の発電量のうりまわり(2018年 経済産業省資料) &lt;P63&gt;</li> <li>・【コラム】火力発電「天然ガスや石油などが燃料。発電量を調節しやすい。石油などの燃料のほとんどを輸入にたよっている。燃料をもやるときに、大量の二酸化炭素などのガスが発生する。→地球温暖化を進めるといわれる。」、水力発電「水が流れる力で発電する。燃料を使わないので、二酸化炭素やはいき物を出さない。水不足のとき、必要なだけの発電ができない心配がある。ダムの建設がかんきょうへ大きないきよきをあたえている。」&lt;P64&gt;</li> <li>・【写真】風力発電、太陽光発電、地熱発電、水力発電&lt;P65&gt;</li> <li>・【本文】「日本は資源の少ない国だから、再生可能エネルギーも取り入れて、電気をつくっているね。」&lt;P65&gt;</li> <li>・【本文】「長岡市では、2013(平成25)年に「生ごみバイオガス発電センター」をつくりました。」&lt;P68&gt;</li> <li>・【写真】生ごみから電気をつくる方法&lt;P68&gt;</li> </ul> <p>「土地の特色を活かした地いき」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】真庭バイオマス発電所&lt;P177&gt;</li> <li>・【コラム】真庭市役所の真原さんの話&lt;P177&gt;</li> <li>・【コラム】バイオマス&lt;P177&gt;</li> <li>・【図】真庭市が取り組んでいるバイオマスのおもしろくみ&lt;P178&gt;</li> <li>・【写真】バイオマスツアー&lt;P178&gt;</li> <li>・【コラム】真庭市役所の真原さんの話&lt;P178&gt;</li> </ul>	<p>記述なし</p> <p>「わたしたちのくらしと電気」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【イラスト】原子力発電所「ウランを利用する。じょう気が発電機を動かす。」&lt;P63&gt;</li> <li>・【コラム】「ウランを燃料として、発電する。少ない燃料で大きな電力がえられる。地震がおきたときや事故がおこったときなどの危険性について、人々のあいだに不安がある。燃料やはいき物の取りあつかいがむずかしい。」&lt;P64&gt;</li> </ul>	
<p>第4学年</p> <p>記述なし</p> <p>「森林とわたしたちのくらし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「最近では、間ばつした木材や製材工場から出るはい材などを、ボイラーや発電機などの燃料として使う「木質バイオマス」として利用する取り組みも広がっています。」&lt;P258&gt;</li> </ul> <p>「電力を地産地消する取り組み」(わたしたちの学びをかそう)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【図】エネルギーの地産地消のしくみ&lt;P279&gt;</li> <li>・【本文】「そこで、小田原市の会社を中心となって、「地域で使う電力は、地域でつくろう。」と立ち上がりました。小田原市もこの取り組みに協力し、市内に太陽光発電の設備を整えられました。また、地域でつくられた太陽光などの再生可能エネルギーが県内の電力会社を通して、地域の家庭や会社、一部の公共施設へ送られるようになりました。」&lt;P279&gt;</li> <li>・【コラム】かまぼこ工場を営む鈴木さんの話&lt;P279&gt;</li> <li>・【写真】小田原市内にある太陽光発電の設備&lt;P279&gt;</li> </ul> <p>「さまざまな土地のくらし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「海の上をふく風や波を利用して、電気をつくっているという話を聞いたことがあるよ。」&lt;P64&gt;</li> <li>・【本文】「さらに、海上の活用も進められており、海上風力発電や波のエネルギーを利用した波力発電の実験もおこなわれています。」&lt;P65&gt;</li> <li>・【写真】海上での風力発電、波力発電の実験&lt;P65&gt;</li> </ul>	<p>記述なし</p> <p>「自然災害から人々を守る」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】放射性物質&lt;P270&gt;</li> <li>・【本文】「また、地震のゆれや津波の被害を受けた福島第一原子力発電所では、原子炉がこれれ、放射性物質が広いはんに放出されました。」&lt;P270&gt;</li> </ul>	
<p>第6学年</p> <p>記述なし</p>	<p>記述なし</p>	<p>記述なし</p>

発行者名	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(学年上/下 掲載ページ)
東書	<p>「水はどこから」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】公民館の館長さんの話&lt;4年P51&gt;</li> <li>・【コラム】ESD&lt;4年P51&gt;</li> </ul> <p>「これからの食料生産とわたしたち」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】持続可能な漁業をすすめる&lt;5年上P123&gt;</li> </ul> <p>「これからの工業生産とわたしたち」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「今のことだけでなく未来のことも考え、環境にも配りよした持続可能な社会をめざすことが求められています。」&lt;5年下P53&gt;</li> <li>・【コラム】持続可能な社会&lt;5年下P53&gt;</li> </ul> <p>「世界の未来と日本の役割」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】持続可能な社会をめざして「豊かな生活と環境とのバランスを考えながら持続可能な社会を実現するためには、国連などの計画にもとづいた国際的な協力が必要です。」、「2015年、ニューヨークの国連本部で「持続可能な開発サミット」が開かれ、持続可能な社会を実現するための2030年までの行動計画が立てられました。その中心として示されたのが「持続可能な開発目標(SDGs)」です。」&lt;6年政治・国際編P104～105&gt;</li> <li>・【コラム】持続可能な社会&lt;6年政治・国際編P104&gt;</li> <li>・【写真】持続可能な開発目標(SDGs)&lt;6年政治・国際編P105&gt;</li> </ul> <p>「中学校に向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】中学校の社会科で考えたいこと「六年生では、国連が「持続可能な社会」という考えのもとで「持続可能な開発目標(SDGs)」を定めて、自分たちだけでなく未来の人たちの幸せをも大切にしていることを学びました。中学校では、小学校では学ばなかった世界の歴史や、地球上のいろいろな場所、そこでくらししている人たちの生活、そして世界や日本で起こっている問題について学びながら、「持続可能な社会」をつくるためにはどうしたらよいか、自分なりに考えていきたいです。」&lt;6年政治・国際編P115&gt;</li> </ul> <p>「新しい日本、平和な日本へ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】地球サミット「豊かな生活と環境を両立させる「持続可能な開発」を進めるために、将来に向けて地球環境を守る行動計画がつけられました。」&lt;6年歴史編P150&gt;</li> </ul>

発行者名	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(学年以上/下 掲載ページ)
<p>教出</p>	<p>「水産業のさかんな地域」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】国際的な団体がみとめた水産物の表示&lt;5年P95&gt;</li> <li>・【本文】「持続可能な漁業」や「責任ある養殖」とは、どういうことだろう。」&lt;5年P95&gt;</li> <li>・【本文】持続可能な水産業をめざして&lt;5年P96～97&gt;</li> </ul> <p>「自動車の生産にはげむ人々」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】さらに、しようがいのある人やお年寄りの人、外国の人など、だれもがともに住みやすい社会にするための「ユニバーサルデザイン」や、未来に向けて環境を大切に守りながらくらしを進展させていく「持続可能な社会」といった考え方も、自動車づくりには求められています。」&lt;5年P134&gt;</li> </ul> <p>「環境をともに守る」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【表】環境を守る努力を続ける、北九州市のあゆみ「2011年環境問題などで先進的に取り組む「環境未来都市」として国から選ばれる」&lt;5年P234&gt;</li> <li>・【本文】「公害が発生したところのような「物を大量に生産して消費し、ごみとしてすてる」という社会を見直し、ごみをできるだけ出さずに、資源を有効に使う「持続可能な社会」をめざしています。」&lt;5年P235&gt;</li> </ul> <p>「環境にやさしい取り組みをふり返ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】海のエコラベル&lt;5年P250&gt;</li> <li>・【コラム】環境にやさしいくらしをめざすまち「環境未来都市」(持続可能な社会をめざして、環境問題や高齢化問題などに先んじて取り組む都市)」下川町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、住田町、東松島市、岩沼市、新地町、南相馬市、柏市、横浜市、富山市、北九州市&lt;5年P250～251&gt;</li> </ul> <p>「新しい文化と学問」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】持続可能な社会を歴史から考えようーリサイクル都市江戸&lt;6年P163&gt;</li> </ul> <p>「地球規模の課題の解決と国際協力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】持続可能な社会をめざす&lt;6年P265&gt;</li> <li>・【本文】2015年、創設70周年をむかえた国連の総会で「持続可能な開発目標」が採択されました。これは、世界から貧困をなくすこと、不平等を減らすこと、気候変動への対策をとることなどの17項目の目標を達成するために世界が協力して行動していくことを決めたものです。科学や技術の力も借りながら、社会のあり方やわたしたちの暮らし方を見直し、持続可能な社会をめざして協力していくことが重要になっています。」&lt;6年P265&gt;</li> <li>・【表】「持続可能な開発目標」に示された17項目の目標(日本ユニセフ協会)&lt;6年P271&gt;</li> <li>・【本文】「ゆうまさんたちは、国際連合の「持続可能な開発目標」(教科書265ページ)に示された17項目の目標を調べました。」&lt;6年P271&gt;</li> </ul>

発行者名	「教材名」 【掲載方法】 記述の概要(学年以上/下 掲載ページ)
日 文	<p>「これからの食料生産」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】【写真】海のエコラベル「海の自然環境のことを考えながら、持続可能な漁業でとられた水産物につけることができます。」&lt;5年P123&gt;</li> <li>・【写真】海のエコラベル「環境にはいりよして、とりすぎに気をつけながら、漁をしている。」&lt;5年P128&gt;</li> <li>・【本文】「海のエコラベルは、消費者にも生産者にもよい取り組みだと思います。」&lt;5年P128&gt;</li> </ul> <p>「国土の環境を守る」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【表】「くらしと環境に関わる年表」国連で持続可能な開発に関する世界目標が採たくされる」&lt;5年P237～238&gt;</li> </ul> <p>「国際連合と日本の役割」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「2015年9月には、国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開かれ、「持続可能な開発のための2030アジェンダSDGs」が採択されました。これは、国連に加盟するすべての国が、2016年から2030年までに、貧困やうえ、地球環境、平和などの問題について、持続可能な開発のために目標を立て、それを達成すべく力を尽くそうとするものです。」、「ユネスコが、法隆寺などを世界遺産に登録しているもの、持続可能な開発のための取り組みの一つなんだね。」&lt;6年P261&gt;</li> <li>・【写真】ユネスコによる世界遺産の修復&lt;6年P261&gt;</li> <li>・【本文】「SDGs」というものだったのよね。」、「国連は、世界を変えるための17の目標を立てているよ。」、「2016年から2030年の間に、世界の国々が努力するとされているんだって。」&lt;6年P264&gt;</li> <li>・【写真】世界を変えるための17の目標&lt;6年P264&gt;</li> <li>・【本文】「わたしは4の「質の高い教育をみんなに」を選びました。将来、わたしは学校の先生になって、世界の国々の子どもたちに、勉強を教えてあげたいと思います。勉強をしたくてもできないという子どもを一人でも少なくしたいです。」、「わたしは、7の「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」を選びました。水資源や電気などのエネルギーは、あたり前のように使うのではなく、こまめに節水や節電を心がけて、みんなですすむように使いたいです。」、「わたしは、11の「住み続けられるまちづくりを」を選びました。今、わたしが住んでいるまちは、とてもすてきなところなので、いつまでも住み続けたいです。そのために日ごろから、ごみを拾ったり、環境に配慮した商品を使ったりしたいです。」、「わたしは、16の「平和と公正をすべての人に」を選びました。日本は戦争を経験し、そのひびきや、つらさをよく知っています。わたしの行く中学校には、平和に関わる活動をするクラブがあります。わたしは、そのクラブに入りたいです。世界の人々が平和になるためにはどうすればいいか、考えてみたいと思います。」&lt;6年P265&gt;</li> <li>・【イラスト】4「質の高い教育をみんなに」、7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、11「住み続けられるまちづくりを」、16「平和と公正をすべての人に」&lt;6年P265&gt;</li> </ul> <p>「中学校の社会科では、どんなことを学ぶのかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】「公民では日本の現代社会の政治や経済、国際関係などについて学び、持続可能な国や社会づくりに参加しようとする意欲を育てる学習をします。」、「持続可能な社会に身のまわりや地域のことに加え、世界の平和や環境問題など、持続可能な社会が実現できるよう、自分で考えたことを未来の社会に生かしたいと思います。」&lt;P270&gt;</li> </ul>

学年	「教材名」【掲載方法】 記述の概要(上/下 掲載ページ)
第3学年	記述なし
第4学年	記述なし
第5学年	記述なし
第6学年	<p>「日本とつながりの深い国々」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】オリンピックのメインスタジアム&lt;政治・国際編P80&gt;</li> <li>・【コラム】中国から転校してきたワンさん「北京は、中国の政治や経済の中心地で、オリンピック・パラリンピックも開かれた大都市です。」&lt;政治・国際編P80&gt;</li> <li>・【写真】ビョーンチャンオリンピックの開会式&lt;政治・国際編P85&gt;</li> <li>・【本文】「2018(平成30)年の冬季オリンピック・パラリンピックでは、さまざまな国の人々が韓国をおとすれました。」&lt;政治・国際編P85&gt;</li> <li>・【写真】リオデジャネイロ・オリンピックの開会式(2016年)、リオデジャネイロ・パラリンピックの車いすバスケットボールの試合&lt;政治・国際編P96&gt;</li> <li>・【本文】「2016年のリオデジャネイロ・オリンピックには、207もの国と地域の選手が参加したそうですよ。」&lt;政治・国際編P96&gt;</li> <li>・【コラム】あおいさんのレポート&lt;政治・国際編P96&gt;</li> </ul> <p>「世界の未来と日本の役割」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】オリンピックでかかげられる各国の国旗&lt;政治・国際編P111&gt;</li> </ul> <p>「新しい日本、平和な日本へ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】東海道新幹線の開通(1964年)と、オリンピックに向けてつくられる高速道路(1963年ごろ)、東京オリンピックの開会式の様子&lt;歴史編P148&gt;</li> <li>・【コラム】東京オリンピック、東京パラリンピック&lt;歴史編P148&gt;</li> <li>・【本文】「1964(昭和39)年に、アジアで初となる東京オリンピックが開かれました。植民地支配から独立したばかりの国々も参加し、過去最多の参加国・地域となりました。またこの年、第2回パラリンピックも東京で開かれました。オリンピックに向けて、競技施設だけでなく、ホテルがいくつも建てられ、道路や下水道が整備されました。」&lt;歴史編P148&gt;</li> </ul>

【教材名】 【掲載方法】 記述の概要(上/下 掲載ページ)	
学年	記述なし
第3学年	記述なし
第4学年	記述なし
第5学年	記述なし
	<p>「ともに生きる暮らしと政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】ピョンチャン、リオデジャネイロ、ソチ、クーベルタン、嘉納治五郎&lt;P6~7&gt;</li> <li>・【本文】「2020(平成32)年の夏、日本でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます(東京大会)。オリンピックとパラリンピックは、どちらも4年に一度、同じ年に開催されている世界的なスポーツの祭典です。」&lt;P6&gt;</li> <li>・【コラム】パラリンピックとは、オリンピックとは&lt;P7&gt;</li> <li>・【図】オリンピックやパラリンピックが開催された都市の広がり&lt;P8&gt;</li> <li>・【表】オリンピック・パラリンピックをめぐるできごとについての年表&lt;P8&gt;</li> <li>・【本文】「2016(平成28)年にブラジルのリオデジャネイロで開催されたパラリンピックは、約160か国から4000人をこえる選手が参加し、それまでで最大の規模になりました。」&lt;P9&gt;</li> <li>・【写真】ウィルチェアエアーラグビーの試合、ウィルチェアエアーラグビーの競技用の車いす&lt;P9&gt;</li> <li>・【コラム】ウィルチェアエアーラグビー、ウィルチェアエアーラグビーの選手である宮野一彦さんの話&lt;P9&gt;</li> </ul> <p>「雪とともに生きる暮らしを支える政治」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「札幌市の発展は、冬季オリンピック札幌大会の開催がきっかけの一つとなり、急速に進みました。」&lt;P57&gt;</li> <li>・【写真】冬季オリンピック札幌大会&lt;P57&gt;</li> <li>・【本文】「札幌市は、冬季オリンピックの開催に向けて、人や移動やものの輸送をしやすくするために、除雪の仕事をうしうきを見直して、取り組みを強めました。」&lt;P58&gt;</li> </ul> <p>「日本の歴史」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【表】歴史年表「アテネで第一回近代オリンピックが開かれる(1896年)」、「東京オリンピック・パラリンピックが開かれる(1964年)」、「札幌オリンピック(冬季)が開かれる(1972年)」、「長野オリンピック・パラリンピック(冬季)が開かれる(1998年)」&lt;P70~71&gt;</li> </ul> <p>「平和で豊かな暮らしを目ざして」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】日本の独立と東京オリンピック・パラリンピック「1964年には、アジアで初となる東京オリンピック・パラリンピックが開かれました。終戦から20年足らずで、日本は、国際的な大会が開けるまでになったのです。」&lt;P222&gt;</li> <li>・【写真】東京オリンピックの開会式、東京パラリンピック(1964年)のポスター&lt;P223&gt;</li> <li>・【コラム】おじいさんの話&lt;P223&gt;</li> <li>・【図】東京オリンピック(1964年)の聖火リレーのコース&lt;P223&gt;</li> <li>・【本文】「東京オリンピックが開かれたころから、国内では新幹線や高速道路が次々に整備され、外国との貿易もさかんになって、日本は、世界有数の工業国へと発展していききました。」&lt;P224&gt;</li> </ul> <p>「世界の中の日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「世界的なスポーツの採点であるオリンピックやパラリンピックには、さまざまな言語や文化・習慣をもつ人々が各国から集まります。」&lt;P232&gt;</li> <li>・【写真】女子スピードスケート競技で金メダルを獲得した日本代表選手、リオデジャネイロオリンピック選手たちが滞在する選手村に設けられたファストフードの店、「サウジアラビアの代表として女性で初めて選ばれて出場した選手」、「開会式で行われた日系ブラジル移民をテーマにした演技」、パラリンピックの開会式で出場する選手たち、オリンピックでかけられる国旗、国歌を歌う選手&lt;P232~233&gt;</li> </ul> <p>「日本とつながりの深い国々」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】オリンピックの開会式で入場行進をする韓国と北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)の合同選手団&lt;P255&gt;</li> </ul> <p>「地球規模の課題の解決と国際協力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】ユニセフの職員として海外で働く井本直歩さんの話「わたしは3才から水泳を始め、競泳の選手としてオリンピックに出場しました」&lt;P261&gt;</li> <li>・【写真】スポーツ施設の屋根に設けられた太陽光の発電パネル「2020(平成32)年に行われる東京オリンピックの会場の一つです。」&lt;P265&gt;</li> </ul>
第6学年	<p>「平和で豊かな暮らしを目ざして」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】日本の独立と東京オリンピック・パラリンピック「1964年には、アジアで初となる東京オリンピック・パラリンピックが開かれました。終戦から20年足らずで、日本は、国際的な大会が開けるまでになったのです。」&lt;P222&gt;</li> <li>・【写真】東京オリンピックの開会式、東京パラリンピック(1964年)のポスター&lt;P223&gt;</li> <li>・【コラム】おじいさんの話&lt;P223&gt;</li> <li>・【図】東京オリンピック(1964年)の聖火リレーのコース&lt;P223&gt;</li> <li>・【本文】「東京オリンピックが開かれたころから、国内では新幹線や高速道路が次々に整備され、外国との貿易もさかんになって、日本は、世界有数の工業国へと発展していききました。」&lt;P224&gt;</li> </ul> <p>「世界の中の日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「世界的なスポーツの採点であるオリンピックやパラリンピックには、さまざまな言語や文化・習慣をもつ人々が各国から集まります。」&lt;P232&gt;</li> <li>・【写真】女子スピードスケート競技で金メダルを獲得した日本代表選手、リオデジャネイロオリンピック選手たちが滞在する選手村に設けられたファストフードの店、「サウジアラビアの代表として女性で初めて選ばれて出場した選手」、「開会式で行われた日系ブラジル移民をテーマにした演技」、パラリンピックの開会式で出場する選手たち、オリンピックでかけられる国旗、国歌を歌う選手&lt;P232~233&gt;</li> </ul> <p>「日本とつながりの深い国々」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】オリンピックの開会式で入場行進をする韓国と北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)の合同選手団&lt;P255&gt;</li> </ul> <p>「地球規模の課題の解決と国際協力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】ユニセフの職員として海外で働く井本直歩さんの話「わたしは3才から水泳を始め、競泳の選手としてオリンピックに出場しました」&lt;P261&gt;</li> <li>・【写真】スポーツ施設の屋根に設けられた太陽光の発電パネル「2020(平成32)年に行われる東京オリンピックの会場の一つです。」&lt;P265&gt;</li> </ul>

【教材名】 【掲載方法】 記述の概要(上/下 掲載ページ)	
学年	
第3学年	記述なし
第4学年	記述なし
第5学年	<p>「国王の環境を守る」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【表】「くらしと環境」に関する年表「1964年オリンピック東京大会が開かれる」、「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開かれる(予定)」&lt;P236～237&gt;</li> </ul> <p>「森林とわたしたちのくらし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【イラスト】「東京2020オリンピック」で使われるオリンピックビジュアルが&lt;P258&gt;</li> </ul>
第6学年	<p>「新しい日本へのあゆみ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】「オリンピック東京大会(1964年)、1964年オリンピック東京大会に向けた高速道路の建設、冬季オリンピック札幌大会(1972年)&lt;P222&gt;</li> <li>・【本文】「1964(昭和39)年に、世界の94か国が参加したオリンピックと、22か国が参加したパラリンピックが東京で開催されました。日本は、戦後20年たらずで復興をはたし、経済発展を上げたことを世界に示しました。その後も日本万国博覧会や冬季オリンピック札幌大会などを開き、日本は平和で民主的な国家として、世界の国々が友好を深めるために大きな役割をばたしました。」&lt;P222&gt;</li> <li>・【本文】「また、2020年に「東京2020オリンピック・パラリンピック」が、東京都でおこなわれることが決まり、現在、開催に向けて、会場の建設など準備が進められています。」&lt;P223&gt;</li> <li>・【本文】「この憲法のもとで、高度経済成長を上げたり、オリンピックを開催したりして、日本は国力を強めることができたね。」&lt;P227&gt;</li> </ul> <p>「つながりの深い国々のくらし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】「オリンピックの開会式&lt;P249&gt;</li> <li>・【本文】「夏と冬でそれぞれ開かれるオリンピック・パラリンピックでは、多くの国や地域の選手が集まって、さまざまな競技を通して交流がおこなわれているようだ。」&lt;P249&gt;</li> <li>・【写真】「オリンピック・パラリンピックでの競技の様子、「東京オリンピック・パラリンピック」のエンブレム、全国の小学生が選んだ東京でのオリンピック・パラリンピックのマスコット、東京都の小学校でおこなわれているオリンピック・パラリンピック教育、オリンピックの表し方&lt;P250～251&gt;</li> <li>・【本文】「スポーツによる国際交流&lt;P250～251&gt;</li> </ul> <p>「オリンピック・パラリンピックと世界の国々」(わたしたちの学びを生かそう)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【写真】「リオデジャネイロオリンピック、1964年の東京オリンピック開会式での参加国の国旗、パラアイスホッケーでかつやくする上原大祐選手&lt;P266～267&gt;</li> <li>・【コラム】「国旗を知るとはその国を理解する一歩」世界の国旗のスペシャリスト 吹浦忠正さんの話&lt;P266&gt;</li> </ul> <p>「オリンピック・パラリンピックと世界の国々」(わたしたちの学びを生かそう)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「ゆいさんは、2016年にブラジルのリオデジャネイロで開催されたオリンピック・パラリンピックに出場した日本選手の姿を見て、世界の人たちが友好を深め、交流することのすばらしさに感動しました。」、「オリンピック・パラリンピックでも、参加する国に敬意を表すために国旗をたいせつにしています。」、「オリンピックは4年に一度開催され、夏の大会と冬の大会があります。夏の大会では現在、約200か国が参加します。日本では夏の大会は東京で、冬の大会は札幌、長野で開催されました。2020年夏には、再び東京で開催されます。オリンピックでは、スポーツを通して世界の人々が友好を深めるため、「平和の祭典」と言われることもあります。パラリンピックはオリンピックが終わったあとに、同じ場所で開催されます。パラリンピックとは「もう一つのオリンピック」という意味です。障がいのある人たちがかつやくするスポーツの大会として、多くの国と選手が参加します。」、「オリンピックやパラリンピックでメダルをとることもすごいことだけれど、世界の国々の人たちがと交流することもたいせつだね。」&lt;P266～267&gt;</li> <li>・【コラム】「夢が、いちばんのエネルギ。」パラリンピック パラアイスホッケー 上原大祐さんの話&lt;P267&gt;</li> </ul> <p>「歴史年表」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【表】「オリンピック東京大会が開かれる(1964)」、「冬季オリンピック札幌大会が開かれる(1972)」、「冬季オリンピック長野大会が開かれる(1998)」、「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開かれる(予定)」&lt;※6&gt;</li> </ul>

「別紙3」【構成上の工夫】（小学校 社会）

項目	ア 冊子の構成	イ 学習過程	ウ 学習活動	エ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫	オ ユニバーサルデザインの視点	カ デジタルコンテンツの扱い
発行者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3・4学年は1巻構成になっており、第5・6学年は2分冊となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つかむ」、「調べる」、「まとめる」という三つの学習過程を単元ごとに掲載している。</li> <li>・社会的な事柄に参画・提案する「いかす」というページを設定している。</li> <li>・補充的な学習を進めることができる「ひろげる」というページを設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な学習の仕方として、「学び方コーナー（原る・聞く・ふれる）（読み取る）（表す・伝える）」を示している。</li> <li>・第3学年の冒頭に「地図帳を使おう」というページを設定し、地図帳の活用の仕方を示している。</li> <li>・「まとめる」場面に多様な表現活動を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の最初の単元に「学習の進め方」を設定し、単元における基本的な学習の進め方について示している。また、「ふり返ろう」を設定し、学習内容、調べ方やまとめ方についての視点を示している。</li> <li>・社会的現象の原方・考え方については、「学習の進め方」の中に「活用のポイント」を設定し、「位置や空間の経過」、「時期や時間の経過」、「事実や人々の相互関係」、「比較・分類、総合、関連付けなど」をキャラクターのイラストを用いて説明している。</li> <li>・各学年の冒頭には、前学年で学んだこと（3年生は「生活科で学んだこと」と当該学年で学ぶことを掲載している。また、各学年の巻末には、当該学年で学んだことを掲載している。</li> <li>・各単元の見開きページに、「本時のめあて」を掲載している。</li> <li>・実社会で働く人々の姿及び実際の活動場面の写真を示したり、キャラクター同士で話し合う活動の様子を示したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カラーバリエーションを含むユニバーサルデザインに配慮している。</li> <li>・ユニバーサルデザインを採用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年のめくじに、「D（デジタル）マークコンテンツ」として、クイズ、動画及び公共機関のコンテンツを掲載している。</li> <li>・URLアドレス及びQRコードを示している。また、コンテンツを活用して学習できるページに、「Dマーク」を示している。</li> </ul>
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年において1巻構成となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つかむ」、「調べる」、「まとめる」という三つの学習過程を単元ごとに掲載している。</li> <li>・学んだ事実を根拠にして、自分なりの考えを表現し合う場面に「選択・判断」のマークを掲載している。</li> <li>・意欲や関心に応じて学習するときに活用できる「ひろげる」というページを設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な学習の仕方として、「学びのてびき（集める）（読み取る）（表す）」を示している。</li> <li>・第3学年の巻末に「わくわく！社会科ガイド」を設定し、地域調査や地図帳の活用の仕方、記録・表現の方法や留意点について示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の巻頭に「社会科の学習の進め方」を設定し、単元における基本的な学習の進め方について示している。また、「学習をふり返ろう」を設定し、追究過程をふり返る視点を示している。</li> <li>・社会的現象の見方・考え方については、「社会科の学習の進め方」の中に「社会科の見方や考え方を設定し、「時期や変化」、「場所や広がり」、「くふうや関わり」、「比べる」、「関連づける」、「総合する」について説明している。</li> <li>・各学年の冒頭には、前学年で学んだこと（3年生は「生活科をふり返ろう」）を掲載している。また、各学年の巻末には、当該学年で学んだことを掲載している。</li> <li>・「つかむ」、「調べる」のページには、「この時間の問い」と「次につなげよう」を掲載している。</li> <li>・キャラクター同士で学習問題について予想したり、学習したことをまとめたりする場面や、社会に参画している人々の話、実際の活動場面の写真を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色覚の個人差に配慮したカラーユニバーサルデザインに基づく配色にしている。</li> <li>・ユニバーサルデザインを採用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年のめくじに、「まなびリンク」として、動画及びワーキングなどのコンテンツを掲載している。</li> <li>・インターネット上のリンク（URLアドレス及び2次元コード）を示している。また、コンテンツを活用して学習できるページに、「まなびリンク」のマークを掲載している。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年において1巻構成となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習問題」を単元ごとに掲載している。</li> <li>・学習問題を解決したあとで、更に話し合ったり、考えたりたい疑問として、「さらに考えたい問題」を掲載している。</li> <li>・単元の学習を終えて、もっと詳しく調べてみたいことや、気になったことを取り上げたページとして「わたしたちの学びを生かそう」を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な学習の仕方として、「学び方・調べ方コーナー（原る・調べる）（読み取る）（表現する）」を示している。</li> <li>・第3学年の巻末に「地図帳の使い方」を設定し、地図帳の活用の仕方を示している。</li> <li>・「OOさんのノート」を掲載し、ノートの書き方の例を示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的現象の見方・考え方については、各学年巻頭の「教科書の中のいろいろなコーナー」に、「見方・考え方コーナー」を設定し、「空間」、「時間」、「関係」といったキーワードを用いて説明している。</li> <li>・各単元の見開きページに、「わたし（たち）の疑問」を掲載している。</li> <li>・各学年の冒頭には、「社会科の学習でたいせつなこと」を掲載している。第4学年、第5学年及び第6学年では、前学年までに学んだことや当該学年で学ぶことを示している。また、第3学年では、当該学年で学ぶことを示している。</li> <li>・キャラクター同士で学習したことを振り返っている場面や、実社会で働く人々の話、実際の活動場面の写真を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カラーユニバーサルデザインに配慮している。</li> <li>・ユニバーサルデザインに対応するよう開発した教科書体を採用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の冒頭に、「デジタルマーク」として、デジタル資料を掲載している。</li> <li>・インターネット上のリンク（URLアドレス）を示している。デジタル資料を活用して学習できるページには、「デジタルマーク」を掲載している。</li> </ul>
日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年において1巻構成となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習問題」を単元ごとに掲載している。</li> <li>・学習問題を解決したあとで、更に話し合ったり、考えたりたい疑問として、「さらに考えたい問題」を掲載している。</li> <li>・単元の学習を終えて、もっと詳しく調べてみたいことや、気になったことを取り上げたページとして「わたしたちの学びを生かそう」を設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な学習の仕方として、「学び方・調べ方コーナー（原る・調べる）（読み取る）（表現する）」を示している。</li> <li>・第3学年の巻末に「地図帳の使い方」を設定し、地図帳の活用の仕方を示している。</li> <li>・「OOさんのノート」を掲載し、ノートの書き方の例を示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の冒頭に、「教科書の中のいろいろなコーナー」に、「見方・考え方コーナー」を設定し、「空間」、「時間」、「関係」といったキーワードを用いて説明している。</li> <li>・各単元の見開きページに、「わたし（たち）の疑問」を掲載している。</li> <li>・各学年の冒頭には、「社会科の学習でたいせつなこと」を掲載している。第4学年、第5学年及び第6学年では、前学年までに学んだことや当該学年で学ぶことを示している。また、第3学年では、当該学年で学ぶことを示している。</li> <li>・キャラクター同士で学習したことを振り返っている場面や、実社会で働く人々の話、実際の活動場面の写真を掲載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カラーユニバーサルデザインに配慮している。</li> <li>・ユニバーサルデザインに対応するよう開発した教科書体を採用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の冒頭に、「デジタルマーク」として、デジタル資料を掲載している。</li> <li>・インターネット上のリンク（URLアドレス）を示している。デジタル資料を活用して学習できるページには、「デジタルマーク」を掲載している。</li> </ul>